

専任教員一覧 (※印は大学院兼務)

教授 13名

※大方	美香	教授	(学長)
※玉置	哲淳	教授	(研究科長)
※赤井	利行	教授	(学部長)
※阿部	和子	教授	(特任教授)
藤田	朋己	教授	(児童保育学科長)
大橋	喜美子	教授	(乳児保育学科長)
※小椋	たみ子	教授	
※瀧川	光治	教授	
※松岡	宏明	教授	
俵谷	好一	教授	
田窪	豊	教授	
※浅野	孝平	教授	
※平野	俊一朗	教授	

准教授 8名

高田	昭夫	准教授	
※渡辺	俊太郎	准教授	
※佐伯	知子	准教授	
要	正子	准教授	
東城	大輔	准教授	
※高根	栄美	准教授	
※清田	岳臣	准教授	
春高	裕美	准教授	

講師 7名

深田	直子	講師	
※末次	有加	講師	
※井岡	瑞日	講師	
藪	一裕	講師	
杉本	孝美	講師	
※金重	利典	講師	
※谷口	康祐	講師	

〔 名前 〕	大方 美香
〔 職位 〕	大学院 児童保育研究科博士後期課程 教授 大学 児童保育学部 学部長 教授
〔 保有学位 〕	教育学修士
〔 担当科目 〕	児童保育学部： 保育実習Ⅰ 卒業論文Ⅱ 博士前期課程： 乳幼児保育研究 保育実践研究Ⅰ・Ⅱ 論文指導 博士後期課程： 保育学特講 保育実践研究演習 論文指導
〔 専門分野 〕	保育学 幼児教育学 教育学
〔 学外活動 〕	・日本乳幼児教育学会会員 ・日本保育学会会員 近畿ブロック評議員 ・日本教育心理学会会員 ・日本教育学会会員 ・チャイルドネット大阪 代表 ・全国ベビーシッター協会 理事 ・大阪市社会福祉サービス第三者評価事業 評価決定委員会 委員長（児童福祉分野） ・池田市子ども・子育て会議 委員長 ・奈良市子ども・子育て会議 委員長 ・芦屋市子ども・子育て会議 委員長 その他
〔 主な教育・研究業績 〕	・保育所保育指針における乳児保育の実践構造の検討 大阪総合保育大学紀要 第7号 2013 ・保育課程に基づく指導計画 ミネルヴァ書房 2010 ・新 現代保育原理 建ぱく社 2009 ・乳児保育 みらい 2009 ・わかる、できる、新保育所保育指針 実践ガイド 中央法規 2009 ・最新 保育テキストブック「乳児保育」聖公会出版 2008 ・子育て家庭への育児アドバイスの手引き 全国ベビーシッター協会 2008 ・乳幼児教育学 久美株式会社 2005 ・子どもと健康 久美株式会社 2005 ・新版 幼児教育課程論 建ぱく社 2002 ・新版 幼児教育方法論入門 2001 その他

〔 名前 〕 玉置 哲淳

〔 職位 〕 教授、大阪総合保育研究所副所長

〔 生年 〕 昭和 19 年 4 月 17 日

〔 保有学位 〕 博士(教育学)

〔 担当科目 〕

大学院 幼児教育学演習Ⅰ、幼児教育学演習Ⅱ 幼児教育課程論、幼児教育指導法

〔 専門分野 〕

臨床幼児教育学

〔 学外活動 〕

チャイルドネット人権絵本検討委員会(座長)、その他市町村幼児教育審議会委員、
NAEYC、日本保育学会、日本保育学会 会員

〔 主な教育・研究業績 〕 平成 20 年以降

単著

1. 幼小の「接続」の幼児教育課程論的研究	共著（戸田 有一・滝川 光治と共著）	平成 20 年 3 月	科学研究費報告書 全 144 頁	幼小の接続の課題をカリキュラム論的に検討するため、3 府県の幼稚園をアンケート及び臨床的に検討し、接続のあり方としてはカリキュラムの特徴（本研究では三つのタイプを想定した）ごとにその接続が行われようとしており、その各々の課題を提示した。結論として「接続期」を想定した場合にカリキュラムタイプごとの検討課題を提示した。 共著者、 <u>玉置哲淳</u> ・滝川 光治・戸田 有一 本人担当：全体の総括・編集
2、指導計画の考え方とその編成方法	単著	平成 20 年 6 月	北大路書房	わが国においてカリキュラムに関わる研究があってもその編制理論を整理することは現場に任されてきたが、その編制を子供から学ぶ（観察）方法を提示することから長期・短期の指導計画の編制の理論を整理したものである。多様な教育課程の理念を受け入れる編制の考え方を提示しただけではなく、その編制の方法論を提起しているところに特徴がある。 本人担当：全体の総括・編集
3、子どもの人権力を育てる―尊敬を軸にした人権保育―	単著	平成 21 年 6 月	解放出版社 pp.1・160	幼児期からの人権教育を子どもの人権を軸にすることを提案し、子どもたちに育てる人権に関わる行動を人権力と呼び、その内実を尊敬・公平・反偏見を追求する力と捉えた。その上で、その三つの力を保育にどのように目標とするのかを詳細に示し、人権保育を具体化して特別な保育としてではなく保育所保育指針の言う「人権を大切にすること」を視野において普通の保育として位置づけた。 本人担当：全体の総括・編集
4、2 歳児の人権保育―その視点とねらい―	玉 置 哲 淳・堀井 二実	平成 2 2 年 6 月	解放出版社 p p 1―67	乳児の人権保育はこれまで論じられてこなかったが、尊敬・公平・反偏見の視点から保育内容を構想したもの 本人分担 全体の総括・編集・執筆（実践記録を除く） 共著者 玉置哲淳・堀井二実
5、幼稚園教育実習	玉 置 哲 淳・島田 ミチコ監修	平成 2 2 年 6 月	建白社	実習のガイドブックであるが、実習生が直面する課題を実習の時間的経過を軸にして各々の時期に直面する課題を抽出し、その対処の要点を示し、学生の学びを付加寝ることを企図した。 本人分担 全体総括・編集・執筆（序章） 共著者 大方美香・滝川 光治・中橋美穂・ト田 信一郎・手良村昭子

論文

1、.幼小接続の課題解決の方向としての移行期の考え方	単著	平成 20 年 3 月	エデュケア 28 号 Pp21-37	幼小接続のために移行期を設けるとすればどのような方向があるかを科学研究費に基づく調査を土台として検討した。結論的には三つのパターンがあり 担当部分： pp.21-37
2.ごっこ遊びにおける子どもの関係と遊びの発展についての研究	共著（赤木敏之、橋本永子、大内田真理、松浦富貴子）	平成 20 年 3 月	エデュケア 28 号 Pp39-50	共著者：玉置哲淳、赤木敏之、橋本永子、大内田真理、松浦富貴子、 担当部分： pp.1-2,pp49-50
3、尊敬を軸にした人権保育の提唱ー幼児期からの人権力を育てる	単著	平成 2 1 年 1 1 月	第 61 回全国人権同和教育研究会三重大会記念誌 自らの実践を問うことから IV・熱と光あふれる未来をー pp.182-189	幼児教育においては子どもの人権の視点を持つことが保育の具体的な実践の骨格であり、そのための目標として人権力の概念を具体的に提起したもの 担当部分 pp.182-189
4、乳児の人権保育実践展開の視点と目標（試論）	単著	平成 2 2 年 3 月	大阪教育大学幼児教育研究室紀要 エデュケア 30 号 pp.1-20	人権力の提唱は乳児にも適用されるとの立場からその保育目標を保育実践から学びつつ整理を試みようとしたもの。 担当部分 pp.1-20
5、部落の乳幼児の実態と保育の課題	単著	平成 2 2 年 7 月	部落解放研究No. 189 pp.29-44	人権保育にとって子どもの実態理解は重要であるが、同和保育においては園を超えた調査が行われなかったが、著書 2 での報告の知見を基にして調査の過大を明示した。特に、特徴的には部落の親の 2 極化の傾向の認識の重要性を指摘した。 担当部分 pp.29-44
6、居場所づくりの視点と課題	単著	平成 2 2 年 11 月	季刊フォーラム 教育と文化第 6 1 号 PP. 50-49	居場所概念を子どもの一人ひとりの尊厳の視点からの課題を提起した。特に、そのための指導制をどのように発揮すべきかを検討した。 担当部分
7、幼稚園におけるクラス経営論の課題と方向についての覚書ークラス経営の実証的研究序説ー	単著	平成 23 年 3 月	大阪総合保育大学紀要 第 5 号 pp.45-68	指導計画論を具体化するための方向としてクラス経営に焦点を当てるための理論的整理を行い、その課題を検討することによって保育現場でのカリキュラム研究を臨床的に検討可能であることを示した。
8、「実況」する関わりから見る保育者の指導のあり方の検討 ～ごっこ遊びにおける保育者の関わりについて～	共著	平成 23 年 3 月	大阪教育大学幼児教育研究室紀要 エデュケア 31 号 PP.29-41	ごっこ遊びの指導論はこれまで一般論に終わる傾向があり、虚構と現実の指導論を発展させるため子どもの内的活動に直接働きかけるために子どもの行為のアナウンスの可能性を実証的に検討し、きわめて有効な方法である示唆を得た。 担当部分 全体の編集と執筆（はじめに・結論と課題。

9、教育課程と指導計画の 編成についての一考察 —1964 年と 1989 年の幼 稚園教育要領の比較から —	共著	平成 23 年 3 月	大阪教育大学幼児教育研究 室紀要 エデュケア 31 号 PP.7－27	共著者 水野春菜 二つの要領を比較し原理の絶対的違いがこれ まで指摘されているが、子供の側と保育者の側 の融合が基本であり、その融合のあり方に違い があることを指摘した。絶対的・原理的な違い から相対的な違いであることを指摘した。 担当部分 全体の編集と執筆（はじめに・結論 と課題。 共著者 大谷彰子（関西学院大学大学院） 芝田圭一郎（関西学院大学大学院）
---	----	----------------	---	--

〔 名前 〕 赤井利行

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 教育学修士

〔 担当科目 〕 算数
算数科指導法

〔 専門分野 〕 数学教育

〔 学外活動 〕 日本数学教育学会会員
小学校学習指導要領算数科編作成協力者(平成20年度版)
小学校算数科教科書執筆者(学校図書)

〔 主な教育・研究業績 〕

- | | | | |
|------|----|--|--------|
| 2018 | 編著 | わかる算数科指導法 改訂版 | 東洋館出版社 |
| | 編著 | 成功する校内研修の進め方 | 東洋館出版社 |
| 2011 | 編著 | 算数力アップ 新評価規準ワーク&授業作りマニュアル
第1学年～第6学年 | 明治図書 |
| 2009 | 編著 | 表現力を育成する新算数科教材開発
第1学年～第6学年 | 明治図書 |
| 2008 | 単著 | 読解力・活用力を育成する「新算数科」教材集 | 学校図書 |
| | 単著 | 計算力向上をめざす新算数科教材開発
第1学年～第6学年 | 明治図書 |

〔 名前 〕 阿部和子

〔 職位 〕 大学 乳児保育学科 特任教授

〔 保有学位 〕 家政学修士

〔 担当科目 〕 保育原理、教職論、赤ちゃんの生活と保育

〔 専門分野 〕 保育学、乳児保育、乳幼児発達心理学

〔 学外活動 〕

日本保育学会会員、国際幼児教育学会会員、保育者養成教育学会会員、
保育教諭養成課程研究会員、日本乳幼児・保育者養成学会員
千葉県子ども子育て会議委員、千葉県社会福祉審議会臨時委員(重大事故)
保育園等整備選定委員会・外部アドバイザー
社会福祉法人教信精舎小台橋保育園、夕やけ小焼け保育園評議委員、
社会福祉法人千草会おお田保育園・花ノ井保育園・北の杜保育園評議員

〔 主な教育・研究業績 〕

主な著書(過去 10 年間)

- ・単著 子ども家庭支援論(2020) 萌文書林
- ・共編著 乳児保育の理論と実践(2019) 光生館
- ・編著 改訂乳児保育の基本(2019) 萌文書林
- ・共著 保育内容総論－保育の構造と実践の探究(2019) 萌文書林
- ・編著 最新保育士養成講座第1巻 保育原理(2019) 全国社会福祉講義会
- ・共著 事例で学ぶ「要録」の書き方ガイド(2019) 中央法規
- ・共著 子どもの育ちが見える「要録」作成のポイント(2018) 中央法規
- ・共著 改定保育所保育指針・解説を読む(2018) 全国社会福祉講義会
- ・編著 保育士等キャリアアップ研修テキスト 乳児保育(2018) 中央法規
- ・共著 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック(2017) 学研
- ・共著 保育祖保育指針ハンドブック(2017) 学研
- ・共著 保育所保育指針まるわかりガイドブック(2017) チャイルド本社
- ・共著 幼保連携型認定こども園教育・保育要領まるわかりガイドブック(2017) チャイルド本社

- ・単著 保育所保育指針中間とりまとめのポイント(2016) 全社協ブックレット⑦
全国社会福祉協議会
- ・単著 養護と教育が一体となった保育を言語化するとは(2016) 養護と養育が一体となった保育の言語化 全国社会福祉協議会
- ・共著 日本保育学会編保育学講座4 保育者を生きる・専門性と養成(2016)
東京大学出版会
- ・共編著 2歳児のすべてがわかる(2016) 明治図書
- ・単著 家庭支援論ー子どもが子どもの生活をするためにー(2015) 萌文書林
- ・共著 保育者論(2012) 萌文書林
- ・共編著 保育内容総論(2011) 全国社会福祉協議会
- ・編著 保育課程の研究(2009) 萌文書林
- ・共著 園長の責務と専門性の研究(2009) 萌文書林
- ・単著 III保育所保育指針の改定のポイント：保育の内容3歳未満児(2009)
別冊発達 新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべてミネルヴァ書房
- ・共著 子どもの家庭福祉論(2008) 相川書房

主な研究(過去10年間)

- ・単著 子どもの日常の姿から発達を捉える試み(2020) 子ども学研究
- ・単著 3歳未満児が育つ場としての集団の検討(2017) 子ども臨床研究第4号
- ・単著 3歳未満児の自発性を育てる保育カリキュラムの開発(2016)
人間生活文化研究 26巻
- ・単著 乳児期における「望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」保育所保育の検討
(2016) 人間生活文化研究 26巻
- ・共同研究 近代日本における育児行為と育児用品にみられる子育ての変化に関する一考察(2015) 人間生活文化研究 25巻
- ・共同研究 (平成27年度子ども子育て推進調査研究事業・厚生労働省) 保育士養成の
り方に関する研究(2015)全国保育士養成協議会
- ・単著 児童臨床研究センターにおける子育て支援考：日常の中の相談(2015)
子ども臨床研究第1, 2合併号
- ・単著 「養護と教育が一体的に行われる」ということを子どもの生活から考える」
(2013) 保育と実践の研究 18巻 2号
- ・単著 乳児の生活の質を担保する仕組みとしての家庭的保育の可能性ーX区の「S保
育ママ(家庭福祉員)」を事例にして(2012) 保育と実践の研究 16巻 4号
- ・共著 質の高い遊びとは何か:遊びの質を規定するための条件(2011)
保育学研究第49巻 第3号

〔 名前 〕	藤田 朋己
〔 職位 〕	教授 児童保育学科学科長・教育推進基盤センターセンター長
〔 保有学位 〕	工学修士
〔 担当科目 〕	情報処理演習Ⅰ・Ⅱ 教育方法・技術論 卒業研究Ⅰ・Ⅱ
〔 専門分野 〕	教育工学 教育情報学 情報学 ICT活用教育
〔 学外活動 〕	日本教育工学会会員 AI時代の教育学会会員 日本保育学会会員 日本アクティブ・ラーニング学会会員 日本デジタル教科書学会会員 iTeachers Academy 会員 学習ソフトウェア情報研究センター 研究会員 大阪総合保育大学 総合保育研究所 研究員 ・IT+教育最前線 2015 仙台（三谷商事株式会社主催）セミナー講師 ・IT+教育最前線 2015 東京（三谷商事株式会社主催）セミナー講師 ・第17回 manaba セミナー 大阪（株式会社朝日ネット主催）セミナー講師 ・第8回教育 IT ソリューション EXPO ELMO 社セミナー講師 ・第1回関西教育 IT ソリューション EXPO ELMO 社セミナー講師 ・第9回教育 IT ソリューション EXPO ELMO 社セミナー講師 ・第2回関西教育 IT ソリューション EXPO ELMO 社セミナー講師 ・平成30年度八尾市・守口市幼稚園免許状更新講習 講師 ・大阪私学生徒指導連盟第7支部第5回支部会議 講演講師 ・第3回関西教育 IT ソリューション EXPO ELMO 社セミナー講師
〔 主な教育・研究業績 〕	・Webを通しての情報表現手法の研究 ・調理・製菓レシピ情報配信による教育支援システムの構築 ・保育・学校での現場を意識した資料作成の研究 ・複数の写真をつなぎ合わせて映像化をはかる研究 ～表現の方法を変えることによる人間の心への響き方～ ・『情報機器活用能力を、実践を通して身に付ける情報教育システム』 ・『映像（マルチメディア）システム』

- ・ ICT を活用した授業方法の研究
- ・『調理・製菓における実習授業支援システムの構築』
- ・『情報表現力を高めるソフトウェア』
- ・『ネットワークを用いた情報教育システム』
- ・『情報系機器の活用による教育効果の向上及び課題解決力の強化』
- ・『マルチメディア活用による教育効果の向上及び授業実施能力の向上』
- ・ 自分史作成による自己の振り返り
- ・ 大学 CM 制作を通じての自己表現力の向上
- ・『次世代の教員養成のための ICT 環境整備』
- ・ 教員養成における e-ポートフォリオシステム構築
- ・ manaba を活用したアクティブ・ラーニング実践
- ・ クラウド型システムや LMS を活用したアクティブ・ラーニング推進のための ICT 環境整備
- ・「子育て支援サービスに関する保護者ニーズと現状との比較検討 ～大阪府下の保育所・幼稚園での実態調査から～」
- ・ 保育者養成におけるインターンシップ実習の成果と課題（2）－学生の自己評価と現場評価の比較検討から－
- ・「保育者養成におけるインターンシップ実習の成果と課題（3）－事前指導における目標設定に着目して－」
- ・「保育・教育系学生による実習目標の設定・見直しに関する研究 ー大阪総合保育大学の長期インターンシップ実習における取り組みー」
- ・ 保育者養成におけるインターンシップ実習の成果と課題（4）－学生の目標設定と現場評価の関連性に着目して－
- ・「保育者養成におけるインターンシップ実習の成果と課題（5）－学年による目標設定の差異に着目して－」
- ・「子育て支援のいまとこれから ～大阪府下の保育所・幼稚園での実態調査から～」
- ・「インターンシップ実習」教育 現状と学習効果 2008 年度～2010 年度
- ・ LMS を活用したアクティブ・ラーニング型授業による効果と課題
- ・「LMS を活用した学びあい授業の効果と課題ー現場実践経験を活かすー」
- ・「学びあう授業による効果と課題ー思考手法・思考ツールの利用ー」
- ・「LMS を活用した学びあい授業による効果と課題（2）～現場実践経験を活かす～」
- ・「支援が必要と考えられる保護者に対する保育者の取り組み(1)ー アンケート調査における成功事例からー」

〔 名前 〕 大橋 喜美子

〔 職位 〕 教授 乳児保育学科学科長

〔 保有学位 〕 社会学修士

〔 担当科目 〕 幼児と環境、環境領域指導法Ⅰ・Ⅱ、保育者論

〔 専門分野 〕 教育学 乳幼児保育学

〔 学外活動 〕

日本保育者養成教育学会理事(2017 年より現在に至る)

日本保育学会会員、

日本子ども社会学会会員、

国際幼児教育学会会員、

日本赤ちゃん学会会員、

日本家庭教育学会会員

川西市 保育所建設用地貸付選考委員会委員(平成 12 年 5 月から平成 13 年 3 月)

宇治市五ヶ庄梅林地内保育所整備事業実施法人選考委員(平成 23 年 11 月から平成 24 年 1 月)

全国保育士養成協議会理事(平成 24 年 4 月から平成 28 年 6 月)

全国保育士養成協議会近畿ブロック理事(平成 24 年 4 月から平成 28 年 6 月)

兵庫県高砂市子ども・子育て会議委員長 (平成 25 年 9 月から平成 29 年 6 月)

滋賀県甲賀市子ども・子育て応援団会議会長 (平成 25 年 9 月至る現在)

社会福祉法人光寶 淡路保育園(大阪市)監事(平成 27 年 9 月至る現在)

社会福祉法人清松学園 かえで保育園理事(西宮市)(平成 28 年 7 月至る現在)

社会福祉法人柳辻福祉会柳辻こども園評議員(京都市)(平成 29 年 4 月至る現在)

社会福祉法人心華会ひいらぎこども園(宇治市)評議員(平成 29 年 9 月 4 月至る現在)

〔 主な教育・研究業績 〕

【著書】平成 20(2008)年度以降

- ・共著 新時代の保育双書 保育内容「ことば」 pp71-86 (株)みらい(2008)
- ・編著 新時代の保育双書 保育内容「乳児保育」 pp1-28、pp109-117 (株)みらい(2009)
- ・共著 シリーズ「最新保育テキストブック」第 7 巻『乳児保育』 pp73-96 (旬聖公会出版(2009)
- ・共著 事例と図解で学ぶ保育実践『子どもの心の育ちと人間関係』 p42-43、p51(株)保育出版社(2009)
- ・共編著 「子ども環境から考える保育内容」 pp1-13、pp28-37 (株)北大路書房(2009)
- ・共著 保育内容・保育方法総論の理論と活用 pp127 ～134 (株)保育出版社(2010)

- ・編著 考え、実践する教育・保育実習 pp19～22 pp29～31 (株保育出版社(2011))
- ・共著 児童家庭福祉 pp31-35 (株あいり出版(2012))
- ・共著 乳児保育 pp1-14 (株あいり出版(2012))
- ・編著 理論と子どもの心を結ぶ保育の心理学 pp17-19 (株保育出版社(2012))
- ・編著 保育のこれからを考える保育・教育課程論 pp11-13,pp25-36 (株保育出版社(2012))
- ・共編著 現場の視点で学ぶ保育原理 pp2-8 教育出版社(株)(2016)
- ・単著 「0・1・2 歳児の保育の中にみる教育—子どもの感性と意欲を育てる環境づくり—」平成 23 年度科学研究費補助金(基盤研究 C 課題番号 0353020 研究代表者)(株北大路書房(2017))
- ・共著 保育カリキュラムの基礎理論—教育課程・全体的な計画の学び pp12-25 (株あいり出版(2018))
- ・共著 乳児保育(保育士等キャリアアップ研修テキスト 1) pp88-114 (株中央法規(2018))
- ・共著 あなたと生きる発達心理学 pp37-48 (株ナカニシヤ出版 (2019))
- ・共編著 保育内容指導法「言葉」乳幼児と育む豊かなことばの世界 pp1-12 (株建帛社(2019))

【論文】平成 20(2008)年度以降

- ・共著 気づき体験によるこども理解と保育士養成課程の成果 京都造形芸術大学紀要 14 巻, 170-179, (2010)
(○大橋喜美子・岸本栄嗣・浦田雅夫)
- ・共著 母子家庭等の子どもを中心とした生活実態(ヒアリング)調査 独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会報告書(○流石智子、大西雅裕、浦田雅夫、大橋喜美子)(2011)
- ・単著 乳幼児の保育・教育を巡る“これまで”“今”“これから”と専門職 神戸女子大学 教職課程年報No. 6P38-41(2012)
- ・単著 子ども・子育て新制度における保育の質と課題 立命館大学産社論集第 51 巻 第 1 号(通巻 165 号(2015))
- ・共著 幼保一体化における保育の計画・質に関する研究—幼稚園・保育所(園)の保育者の差異に着目して—神戸女子大学文学部紀要第 49 巻 P.65～77 平成 23 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C 課題番号 0353020)研究代表者:大橋喜美子(2016)
大橋喜美子 共同研究者:三宅茂夫
- ・共著 大人の発話スタイルが乳児の顔注視行動に与える影響:歌いかけ (Infant-Directed Singing) に着目して 日本音声学会「音声研究」(2016)文部科学省科学研究費補助金 (新学術領域 24119005, 代表: 明和政子), 日本学術振興会科学研究費補助金 (特別研究員奨励費 13J04767, ○代表: 今福理博; (基盤研究(C) 23531094, 代表: 大橋喜美子)
- ・単著 自ら気づき自ら学ぶグローバルな視野をもつ保育者養成 教師教育研究第 30 号 全国私立大学教職課程協会(2017)
- ・単著 総合保育園で育まれる自己肯定感と保育カリキュラム—デンマーク L 市と G 市における事例から考察— 神戸女子大学文学部紀要第 51 巻(2018) (平成 23 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C 課題番号 0353020 研究代表者:大橋喜美子)
- ・単著 子どもの感性と意欲を育てる保育環境についての研究—0-5 歳児の発達の基盤に着目して— 日本家庭教育学会「日本家庭教育研究 25 号」(2020)

- ・単著 保育内容「環境」領域に関する研究 立命館大学産業社会学部紀要産業社論集
第 56 巻 2 号(2020)

【国際シンポジウム企画】

- ・シンポジウムテーマ「科学することの感性と造形」京都造形芸術大学、メルボルン大学 Early child center の
交流講演会企画及びコーディネーター(2008)
- ・幼保一体化に向けた保育カリキュラムー自己尊重感を育てるデンマークの保育からの
学びー 大野睦子氏(デンマークの総合保育園元保育士、デンマーク在住)
平成 23 年度科学研究費助成事業基盤研究(C)(課題番号 23531094)、
平成 27 年度行吉学園教育・研究助成(課題No.K2747)の助成を受けて実施。(研究代
表者:大橋喜美子)(2015)

【主な講演】平成 25(2013)年度以降

平成 25 年度

- ・神戸女子大学附属幼稚園保護者会講演「親の背に感じる愛」
- ・神戸女子大学春期公開講座講演「再生:“今”見つめよう、子どもの育ちと教育」
- ・京都府保育協会:宇治市家庭的保育者基礎研修会講演「乳幼児の発達と心理」
- ・平成 25 年度近畿ブロック保育研究集会分科会助言「子どもの育ちを保障するー保育の資質向上を図る」
- ・京都府保育協会講演「0 歳児・1 歳児の発達と保育」②
- ・京都府保育協会講演・助言『子どもの育ちを保障する「保育者の資質向上を図る」』
- ・京都市保育連盟保育実践研修連続講座「保育カリキュラムの歴史と構造」「保育実践:乳児期の発達と保育
カリキュラム」
- ・京都市保育連盟保育実践研修連続講座「保育実践:幼児期の発達と保育カリキュラム」「保育カリキュラムと
保育所保育指針の再考」
- ・京都市保育連盟「平成 25 年度実践論文作成講座」指導助言
- ・京都府保育協会講演「保育課程から教育を明らかにする」
- ・神戸女子大学秋期公開講座講演「再生:“今”見つめよう、子どもの育ちと教育」
- ・京都市保育連盟「平成 25 年度実践論文作成講座」指導助言
- ・京都府保育協会研修会講演「1 歳児・2 歳児の発達と保育」
- ・京都府保育協会研修会 講演 保育所職員研修講演「保育課程講座Ⅱ」
- ・全国保育士養成協議会 現代保育研究所第3回研修会シンポジウム話題提供「乳幼児における保育所(園)
と保護者からみた“教育ー今後の保育士養成に求められることー」

平成 26 年度

- ・京都保育研究集会「すべての子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して」分科会助言
- ・京都府保育協会:宇治市家庭的保育者基礎研修会講演「乳幼児の発達と心理」
- ・京都市保育連盟「平成 26 年度実践論文作成講座」指導助言
- ・三重県伊賀市社会福祉協議会講演 「幼児期の発達と保育大地に根づく心育てと心育ち」
- ・京都市保育連盟連続講座講演「乳幼児の発達を基盤とした保育の連続性と保育の質①」

- ・京都市保育連盟連続講座講演「乳幼児の発達を基盤とした保育の連続性と保育の質②」
- ・京都府保育協会講演「質の高い保育と年間指導計画 3 歳児・4 歳児」
- ・大阪市私立幼稚園連合会 設置者・園長研修会講演「幼保一体化と保育の専門性」
- ・京都府保育協会講演「質の高い保育と年間指導計画 5 歳児・6 歳児」
- ・甲賀市内幼稚園・保育園職員研修会「自然環境を生かした保育」
- ・京都市保育連盟連続講座講演「感性が育つ乳幼児の発達と保育環境① ―保育・教育・環境の捉え方について―」
- ・京都市保育連盟連続講座講演「感性が育つ乳幼児の発達と保育環境② ―デンマークの保育から環境を学ぶ―」
- ・兵庫県保育連絡協議会第1回研修会ラウンドテーブル「子どもの発達理解と保育者の専門性」
- ・京都府保育協会子育て支援員養成研修 専門研修「乳幼児の発達と心理」
- ・京都府保育協会「自己肯定感を高める自然を生かした保育―デンマーク・ロスキレ市の実践を中心に―」
- ・京都市保育連盟研修会「家庭と保育園が連携した保育の質に関する研究調査の報告」
- ・神戸女子大学・神戸女子短期大学実習交流会「幼保一体化にみる教育と保育者の専門性― 自尊感情を高める保育 ―」
- ・大私幼南支部・阪私幼南地域 教員研修会「乳幼児期の保育で大切にしたいこと―認定こども園での教育とは―」
- ・京都府子育て支援員養成研修 専門研修(地域保育コース)講演「乳幼児の生活とあそび」
- ・京都府子育て支援員養成研修 専門研修(地域保育コース)講演「乳幼児の発達と心理」
- ・宇治市家庭的保育者基礎研修会「科学の芽をいざなう乳児期の発達と保育」
- ・京都市保育連盟平成 27 年度実践論文作成講座「研究論文作成の基本を学ぶ」

平成 28 年度

- ・社会福祉法人光宝寺学園淡路保育園保育内容指導
- ・兵庫県保育連絡協議会第 2 回研修会ラウンドテーブル「「自尊心を育む環境と保育」
- ・京都市保育連盟京都保育研究所保育実践論文作成講座「実践論文を綴る」
- ・京都府保育協会子育て支援員養成研修 専門研修「特別に配慮を要する子どもへの対応」
- ・京都府保育協会平成 28 年度子育て支援員養成研修専門研修「乳幼児の生活と遊び」
- ・京都府保育協会平成 28 年度子育て支援員養成研修専門研修「乳幼児の発達と心理」
- ・京都府保育連盟連続講座「幼保一体化の流れの中で考える教育」
- ・京都府保育連盟連続講座「幼稚園と保育所(園)の保育者から見た教育」
- ・京都府保育連盟連続講座「0歳児・1歳児・2歳児の生活にみる教育」
- ・京都府保育連盟連続講座「3歳児・4歳児・5歳児の生活にみる教育」
- ・三重県伊賀市社会福祉協議会講演 テーマ未定
- ・京都府民間保育園協会管理者主任中堅研修講演「これからの日本の教育と保育を語る」
- ・平成 28 年度 たつの市第4回幼保こども園交流研修会「乳児期の発達を支える保育の環境」

平成 29 年度

- ・全国私立保育園連盟京都大会第 1 群第 4 分科会助言「保育環境―自然環境との触れ合い」
- ・第 21 回大津市保育大会記念講演「響き合う保育・生かし合う保育・未来を創る大津の保育」

- ・大津市平成 29 年度保育研究会①「公開保育 0 歳児」助言指導
- ・京都市私立保育園連盟講座「おなかの中の赤ちゃんの様子(胎児期)」 「乳児期前半の発達とあそび」
- ・京都市私立保育園連盟講座「乳児期後半の発達とあそび」 「乳児期の環境と保育カリキュラム」
- ・和歌山県教育委員会園長等運営管理協議会:和歌山県幼稚園・保育所・認定こども園関係職員合同研修
「3法令の改定を受けての要点とこどもの発達に必要な保育の計画」
- ・大津市平成 29 年度保育研究会②「公開保育 0 歳児」助言指導「こころもからだもすこやかに」
- ・たつの市第 5 回幼保こども園交流研修「乳児期の発達を促す生活と遊びの環境」

平成 30 年度

- ・西宮市私立保育協会主催:キャリアアップ研修「乳児保育分野」の講演 「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領について」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観察を通しての記録及び評価、評価の理解及び取組」など 15 回
- ・京都市保育連盟主催:キャリアアップ研修講演「乳児保育」の講演「発達をベースとした保育環境と乳児保育への実際への専門的知識の創造」「乳児保育・教育における安全な環境」「乳児保育・教育における個々の発達を促す生活と遊びの環境」「0 歳児の発達と保育内容、他職種との協働」「1 歳以上3歳未満児の発達と保育内容」など
- ・金沢市教育センター主催 講演「乳児期の保育にみる教育:科学する目を育てる環境づくり」
- ・高砂市教育委員会・高砂市立北浜こども園主催:AM:公開保育助言、PM:公開保育助言と講演:「自然を大切にしたい保育と子どもの発達」
- ・三重県伊賀市役所健康福祉部保育幼稚園課主催講演「新しい保育制度にみる保育の質および専門性について」

令和元年度

- ・京都府保育協会研修:幼児教育:資質と能力を育むための保育内容「個々の子どもの発達の状況に応じた幼児教育・保育幼児教育・保育の役割と機能及び現状と課題」
- ・京都市保育園連盟保育士等キャリアアップ研修:分野:乳児保育・教育「発達をベースとした保育環境と乳児保育への実際への専門的知識の創造」「乳児保育・教育における安全な環境」「乳児保育・教育における個々の発達を促す生活と遊びの環境」「0 歳児の発達と保育内容、他職種との協働」「1 歳以上3歳未満児の発達と保育内容」
- ・京都市保育園連盟保育士等キャリアアップ研修:分野:乳児保育・教育:「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領について」「全体的な計画に基づく指導計画の作成」「観察を通しての記録及び評価、評価の理解及び取組み」
- ・三重県伊賀市公立&私立事業協会合同研修会「乳幼児期に育てたい力と小学校への接続」
- ・京都市保育園連盟 2019(令和元)年度第2回保育専門性向上研修「幼児期の保育の環境」「人的環境物的環境と地域環境を生かす保育」
- ・京都市保育園連盟 2019(令和元)年度第2回保育専門性向上研修「発達をベースとした保育の指導計画、PDCAサイクルを実施して実践研究に生かす」「小学校への連携と教育・保育の在り方について具体的な実践例から学ぶ」
- ・三重県伊賀市所(園)長研修会「伊賀市の保育で何が必要か一所(園)長のすべきこと」

〔 名前 〕 小椋たみ子

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 博士（文学） （京都大学）

〔 担当科目 〕

発達心理学特論、臨床発達心理学、発達心理学特講
発達心理学演習（発達支援）、論文指導

〔 専門分野 〕

発達心理学、障害児心理学

〔 学外活動 〕

日本発達心理学会会員、日本心理学会会員、日本教育心理学会会員、日本保育学会会員、
日本赤ちゃん学会会員（評議員）、日本言語科学会会員、日本心理臨床学会会員、Member of
International Society for the Study of Behavioral Development
臨床心理士、臨床発達心理士

〔 主な教育・研究業績 〕

〔著書〕（2011 年以降）

小椋たみ子（2011）．幼児の初期語彙発達．山口真美・金沢創（編） 心理学研究法 4 発達．誠信書房，pp. 169-191.

小椋たみ子（2011）．前言語． 無藤隆・子安増生（編）発達心理学 I 東京大学出版会
pp. 201-207.

小椋たみ子（2011）．乳幼児期の言葉の発達と社会性．成田朋子・大野木裕明・小平英志
（編）保育実践を支える 保育の心理学 I 福村出版 pp. 106-119.

小椋たみ子（2012）．言語発達．高橋恵子・秋山弘子・湯川良三・安藤寿康（編） 発達科学入門 第2巻：子どもの発達 東大出版会 pp.127-142.

小椋たみ子（2012）．第12章「言語発達」、第13章「言語発達の遅れと言語発達の評価」、
第14章「発達と障害」乳幼児心理学．放送大学教育振興会 pp. 191-244.

小椋たみ子（2012）．赤ちゃんのことば．小西行郎・遠藤利彦（編）赤ちゃん学を学ぶ人のために．世界思想社 pp. 192-211.

小椋たみ子・小山正・水野久美 (2015). 乳幼児期のことばの発達とその遅れ. ミネルヴァ書房.

小椋たみ子・綿巻徹・稲葉太一 (2016). 日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙の開発と研究. ナカニシヤ出版.

Ogura, T. & Murase, T. (2016). The role of cognitive bases and caregiver's speech in early language development. In Masahiko Minami(Ed.) *Handbook of Japanese applied linguistics*. pp.17-41. De Gruyter Mouton. Berlin.

小椋たみ子 (2016). 乳幼児への話しかけ方は大人への話しかけ方と違っているか？
中島平三 (編) ことばのおもしろ事典. 朝倉書店 pp63-73.

岩立志津夫・小椋たみ子 (編) (2017). よくわかる言語発達 (改訂新版). ミネルヴァ書房.

小椋たみ子 (2017) 話しことばの発達. 臨床発達心理士講座 5巻 言語発達とその支援.
pp. 90～117. ミネルヴァ書房.

小椋たみ子 (2018). 乳幼児期の言葉の発達と社会性. 成田朋子・大野木裕明・小平英志 (編). 新・保育実践を支える保育の心理学 I. Pp. 107-120.

小椋たみ子 (2019). 第1章言葉 日本赤ちゃん学協会 (編) 赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第3巻 pp. 2～52. 中央法規出版.

〔論文〕 (2011 年以降)

小椋たみ子・清水益治・鶴宏史・南憲治 (2011). 3歳未満児の「言葉の領域」と保育活動についての保育士の信念. 帝塚山大学現代生活学部紀要, **7**, 95-116.

清水益治・小椋たみ子・鶴宏史・南憲治 (2011). 保育所における保育課程の編成に関する研究. 帝塚山大学現代生活学部紀要, **7**, 117-132.

小椋たみ子・清水益治・鶴宏史・南憲治 (2012). 3歳未満児のままごと場面、読み聞かせ場面での保育士の働きかけ行動. 帝塚山大学現代生活学部紀要, **8**, 47-62.

清水益治・小椋たみ子・松尾純代・鶴宏史 (2013). DVD を用いた子どもとのかかわり記録作成の効果. 帝塚山大学現代生活学部紀, **9**, 53-64.

清水益治・小椋たみ子・鶴宏史・松尾純代. (2014). DVD を用いた子どもとの関わり記録作成の効果 II. 帝塚山大学現代生活学部紀要, **10**, 123-137.

小椋たみ子 (2014). 前言語期から文法出現期の子どもへの養育者のことばと身振りでの働きかけ. 帝塚山大学現代生活学部紀要, **10**, 109-121.

小椋たみ子・増田珠巳・平井純子・浜辺直子 (2014). 2歳の言語発達に関連する 9, 12, 18ヶ月の母親の発話機能. 言語科学会第 16 回年次国際大会 Proceedings. pp. 127-130.

小椋たみ子 (2015). 乳幼児期の気質の一貫性と性差. 帝塚山大学現代生活学部紀要, **11**, 65-74.

小椋たみ子 (2015). 前言語コミュニケーション 特集ことばとコミュニケーションの発達. 発達, **141**. 2-7, ミネルヴァ書房.

小椋たみ子・増田珠巳・平井純子・浜辺直子 (2015). 生後 2 年目における母親の言語模倣と子どもの言語発達. 言語科学会第 17 回年次国際大会 Proceedings. pp. 126-129.

小椋たみ子・増田珠巳・平井純子・浜辺直子 (2017). 2歳の語彙発達を予測する母親の言語入力. 大阪総合保育大学紀要, **11**, 17-26.

小椋たみ子・増田珠巳・平井純子・浜辺直子 (2017). 母親の Child Directed Speech (CDS) の語彙面の特徴と子どもの言語発達. 言語科学会第 19 回年次国際大会 Proceedings pp. 80-83.

小椋たみ子・浜辺直子・増田珠巳・平井純子 (2018). 子どもの名詞、動詞獲得に及ぼす養育者の幼児語、成人語の言語入力の効果. 言語科学会第 20 回年次国際大会 Proceedings. pp. 126-129.

小椋たみ子・増田珠巳・浜辺直子・平井純子・宮田 Susanne (2019). 日本人母親の対乳児発話の語彙特徴と子どもの言語発達. 発達心理学研究, **30**(3). 153-165.

国際学会発表 (2011 年以降, First author のみ)

Ogura, T., Itakura, S. & Kustuski, A. (2011). Nonlinguistic predictors of vocabulary comprehension and production at 18 months. XVth European Conference on Developmental Psychology (Bergen, Norway)

Ogura, T., & Masuda, T., (2012). Early categorization ability and vocabulary development. XVIII Biennial International Conference on Infant Studies (Minneapolis, U.S.A.).

Ogura, T., Masuda, T., Hirai, J. & Hamabe, N. (2014). Social pragmatic features of maternal input and children's early language development. Annual Meeting of British Developmental Psychology, (Amsterdam, Netherland).

Ogura, T., Masuda, T., Hirai, J. & Hamabe, N. (2016) Verbal imitations in maternal input and children's linguistic development. International Congress of Psychology 2016, (Japan, Pacifico Yokoham).

Ogura, T., Masuda, T., Hirai, J. & Hamabe, N. (2017). Maternal responsive and directive utterances as predictors of children's lexical development: the role of joint attentional focus. Society for Research in Child Development 2017 Biennial Meeting. Austin Convention Center (U.S.A., Austin).

Ogura, T., Masuda, T., Hirai, J. & Hamabe, N. (2018) . Lexical characteristics of Japanese maternal child directed speech (CDS) and the effects on children's vocabulary development. 25th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioral Development, The Star Gold Coast, (Queensland, Australia).

Ogura, T., Hamabe, N., Masuda, T., & Hirai, J. (2019). Japanese maternal input of baby-form and adult-form words on children's acquisition of nouns and verbs. 19th European Conference on Developmental Psychology, Divani Caravel Hotel. (Athene, Greece).

国内学会発表 省略

その他

小椋たみ子 絵本場面における母子共同注視と子どもの言語発達. Child Research Net. 2019 年 4 月 19 日掲載. <https://www.blog.crn.or.jp/lab/09/11.html>

Ogura T. Joint Attention and Language Development in Mother-Child Picture Book Reading. Child Research Net 英語版. June 14, 2019. https://www.childresearch.net/papers/playing/2019_01.html

〔 名前 〕 瀧川 光治

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 博士（教育学）

〔 担当科目 〕 理科指導法（学部）、卒業論文ⅠⅡ（大学）
教育方法研究Ⅰ（大学院）
保育内容研究（大学院）

〔 専門分野 〕 保育方法学・保育内容学、教育方法学

〔 学外活動 〕 日本保育学会会員・評議員、日本乳幼児教育学会会員
尼崎市子ども・子育て審議会委員
泉大津市教育委員会 スタートカリキュラム策定委員会 座長
四條畷市 乳幼児教育保育アクションプラン策定委員会 座長 ほか

〔 主な教育・研究業績 〕

連載「すぐに取り入れたくなる 保育の環境づくり」『保育とカリキュラム』ひかりのくに、2016年4月号～

共著『手がるに園内研修メイキング みんなでつくる保育の力』わかば社、2016

単著「写真を活用した保育の振り返りと園内研修の手法の提案：アクティブ・ラーニング型園内研修の1つとして」大阪総合保育大学紀要第10号、2015

監修『自由研究にそのまま使える！ カンタン！キレイ！ 万華鏡キット』ひかりのくに、2015

共編著『改編・保育の考え方と実践』久美出版、2012

〔 名前 〕 松岡 宏明（まつおか ひろとし）

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 博士（教育学）

〔 担当科目 〕

「基礎造形」「図画工作科指導法」「卒業研究」（大学）

「子どもと表現研究」「教育実践演習」「研究指導」（大学院）

〔 専門分野 〕 美術教育、グラフィックアート

〔 学外活動 〕

一般社団法人日本美術教育学会会員・理事・副事務局長・編集部長、美術科教育学会会員、絵本学会会員、大学教育学会会員、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問

〔 主な教育・研究業績 〕

（著書）

- ・ 『新学力観に基づく中学校美術科指導細案2年』共著、明治図書出版、1993
- ・ 『楽しくうまくなるスケッチの学習』共著、明治図書出版、1996
- ・ 『幼児の造形-造形活動による子どもの育ち-』共著、保育出版社、2002
- ・ 『造形表現指導法』共著、東京未来大学、2008
- ・ 『日本美術 101 鑑賞ガイドブック』共著、三元社、2008
- ・ 『西洋美術 101 鑑賞ガイドブック』共著、三元社、2008
- ・ 『美術教育概論（改訂版）』編著、日本文教出版、2009
- ・ 『大学を変える-教育・研究の原点に立ちかえって-』共著、大学教育出版、2010
- ・ 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』共著、保育出版社、2011
- ・ 『学校における美術鑑賞のかたちと実践「日本・西洋美術 101 鑑賞ガイドブック」を活用した鑑賞授業題材集』共著、滋賀大学教育学部新関伸也研究室、2012
- ・ 『幼児の造形ニューヒット教材集1 絵画・造形あそび編』共著、明治図書出版、2012
- ・ 『保育の表現技術実践ワーク -かんじる・かんがえる・つくる・つたえる-』共著、保育出版社、2016
- ・ 『子供の世界 子供の造形』単著、三元社、2017
- ・ 『美術教育ハンドブック』共著、三元社、2018
- ・ 『美術教育概論（新訂版）』編著、日本文教出版、2018

（学術論文）

- ・ 「確かな目標設定・評価と豊かな授業へのアプローチ」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 271 号、1995
- ・ 「環境教育が内在する美術教育のあり方」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 276 号、1998
- ・ 「意図的かつ臨床的な『造形表現』の授業展開 -保育者養成現場より- (前)」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 282 号、2001
- ・ 「意図的かつ臨床的な『造形表現』の授業展開 -保育者養成現場より- (後)」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 283 号、2001「美術（図工）科における鑑賞教育の目標設定に関する考察」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 288 号、2005
- ・ 「保育者養成における『表現』教育の視点-イギリス・ドラマ教師養成の実践から-」共著（筆頭）、中京女子大学研究紀要第 43 号、2009
- ・ 「『造形』から『保育』を考察する意義とアドバンテージ」単著、中京女子大学子ども文化研究所『子ども文化学研究』第 17 号、2010
- ・ 「対話型鑑賞と対象作品についての再考」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 296 号、2012
- ・ 「アメリカ・ガットマンコミュニティカレッジにおける e ポートフォリオ活用の基本構造」共著、関西国際大学教育総合研究所『教育総合研究叢書』第 8 号、2015
- ・ 「小学校における鑑賞学習指導の現状と課題」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 300 号、2016
- ・ 「鑑賞学習ルーブリックの作成とその活用に関する一考察」共著、日本美術教育学会『美術教育』第 301 号、2017
- ・ 「保育者・初等教育者に求められる幼児・低学年児の造形を『みる力』に関する研究」（博士（教育学）論文）単著、大阪総合保育大学大学院児童保育研究科、2019
- ・ 「保育者を対象とした幼児の造形を見ることに関する調査からの考察」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 304 号、2020

（実践報告論文）

- ・ 「美術館における親子創作活動の展開～県立美術館普及課学芸員と県立女子短大保育科教員のコラボレーション～」共著（筆頭）、日本美術教育学会『美術教育』第 286 号、2003
- ・ 「体験目標を位置づけた鑑賞教育の実践」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 290 号、2007
- ・ 「制作・鑑賞活動を通して教科の特性と指導法を学ぶ『図画工作科教育法』の一展開」単著、日本美術教育学会『美術教育』第 297 号、2013

（外部資金獲得）

- ・ 平成 15・16 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 B 研究 1（一般）〕研究分担者
- ・ 平成 16・17・18 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 B 研究 1（海外学術調査）〕

研究分担者

- ・ 文部科学省平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 G P) 採択、申請責任者
- ・ 平成 21・22・23 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 B 研究 1 (一般)〕研究分担者
- ・ 平成 26・27・28・29 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 B 研究 1 (一般)〕研究代表者
- ・ 平成 29・30・31 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 B 研究 1 (一般)〕研究分担者
- ・ 令和 2・3・4・5 年度文部科学省科学研究費補助金〔基盤研究 B 研究 1 (一般)〕研究代表者

(制作研究)

- ・ 『Season' s Greetings from 上高地/Autumn into Winter』、『Season' s Greetings from 上高地/Summer into Autumn』第 47 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館) 京都府教育委員会賞受賞、1987
- ・ 『Season' s Greetings from 上高地/The serenity of Tashiro pond』、『Season' s Greetings from 尾瀬/Faraway Sky in Oe marshy field』第 48 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館) 京都府教育委員会賞受賞、1988
- ・ 『dawns and overlapped / ACT 1 IN KAMIKOCHI』、『Misty stillness / kamikochi with drifting mists』第 49 回美術文化展 (東京都美術館他)、1989
- ・ 『Flowing impressions』及び『Falling impressions』第 49 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館)、1989
- ・ 『impression in my mind eyes—21 世紀に伝えたい自然—』、『38mm F4.5 f8 4 /year』
- ・ 『WATER、OUR LIFE』、『GREEN、OUR LIFE』第 50 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館)、1990
- ・ 『birds' appeal —鳥のいる地球—』、『woods' appeal—森のある地球—』第 51 回美術文化展 (東京都美術館他)、1991
- ・ 『花 good relationship on the earth 緑』、『鳥 good relationship on the earth 水』第 51 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館) 京都市長賞受賞、1991
- ・ 『鳥を育む水 —SAVE THE EARTH—』、『森を育む水 —SAVE THE EARTH—』第 52 回美術文化展 (東京都美術館他)、1992
- ・ 第 1 回個展、京都市/画廊・とーべえ、1992
- ・ 『水—It' s the origin』、『光—It' s the energy』第 52 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館読売テレビ賞受賞、1992
- ・ 『小さな空』、『小さな海』第 53 回美術文化展 (東京都美術館他)、1993
- ・ 『1960~2000』、『Bird' s appeal』第 53 回関西美術文化展 (大阪市立美術館・京都市美術館) 関西美術文化新人賞受賞、1993

- ・ 『小さな大空』、『小さな大地』第54回美術文化展（東京都美術館他）新人賞受賞、1994
- ・ 『奏（かなでる）－OZE』、『装（よそおう）－OZE』第54回関西美術文化展（大阪市立美術館）、1994
- ・ 『best wishes for the land / water』及び『best wishes for the sky/air』第55回美術文化展（東京都美術館他）、1995
- ・ 第2回個展、京都市／画廊・とーべえ、1995
- ・ 『Season's Greetings from 沼山峠（尾瀬）』、『Season's Greetings from 大正池（上高地）』第55回関西美術文化展（大阪市立美術館）関西美術文化新人賞受賞、1995
- ・ 『Season's Greetings from 上高地 '96』①、『Season's Greetings from 上高地 '96』② 第56回美術文化展（東京都美術館他）奨励賞受賞、1996
- ・ 『The reason why she can fly』、『The reason why she can bloom』第56回関西美術文化展（大阪市立美術館）大阪市長賞受賞、1996
- ・ 『Season's Greetings from 檜』、『Season's Greetings from 焼』第57回美術文化展（東京都美術館他）、1997
- ・ 『WONDER SHIMANE①』（宍道湖月景）、『WONDER SHIMANE②』（斐伊川最下流）、『WONDER SHIMANE③』（武家屋敷）第30回島根県芸術文化祭総合美術展デザインの部（島根県民会館）知事賞〔展覧会最高賞〕受賞、1997
- ・ 『小さな大地』、『小さな大海』第58回美術文化展（東京都美術館他）、1998
- ・ 『WONDER SHIMANE ④』（斐川町築地松）、『WONDER SHIMANE⑤』（出雲大社）、『WONDER SHIMANE⑥』（知夫赤壁）第31回島根県芸術文化祭総合美術展デザインの部（島根県民会館）金賞受賞、南北軸6県交流美術展（岡山県立美術館）、1998
- ・ 『大海なんていうけれどほんとはとっても小さいよ。』、『大空なんていうけれどほんとはとっても小さいよ。』第59回美術文化展（東京都美術館他）、1999
- ・ 第3回個展、島根県立美術館ギャラリー、1999
- ・ 『WONDER SHIMANE⑦』（桜江町・江の川鯉のぼり）第32回島根県芸術文化祭総合美術展デザインの部（島根県立美術館）島根デザイン連盟賞受賞、1999
- ・ 『WONDER SHIMANE⑧』（大根島牡丹雨景）第60回美術文化展（東京都美術館他）、2000
- ・ 『WONDER SHIMANE⑩』（松江大橋薄明）第60回関西美術文化展（大阪市立美術館）、2000
- ・ 『WONDER SHIMANE⑪』（島根町洗濯岩）、『WONDER SHIMANE⑫』（津和野・鷺の舞）第61回美術文化展（東京都美術館他）、2001
- ・ 『WONDER SHIMANE⑬』（日本海岸浜昼顔群生）第61回関西美術文化展（大阪市立美術館）、2001
- ・ 『WONDER SHIMANE⑭』（松江大橋朝焼け）、『WONDER SHIMANE⑮』（隠岐知夫里島・オオウラギンヒョウモン）第62回美術文化展（東京都美術館他）、2002
- ・ 『WONDER SHIMANE⑯』（玉造の春）第62回関西美術文化展（大阪市立美術館）関西美術文化奨励賞受賞、2002
- ・ 『隠岐知夫里島謎解きブック』全イラスト担当、島根女子短期大学知夫村謎解き隊 鹿野一厚編集・執筆／ハーベスト出版、2003

- ・ 『WONDER SHIMANE⑰』(月照寺・石灯籠越しの6月)、『WONDER SHIMANE⑱』(大森銀山の石州瓦) 第63回美術文化展(東京都美術館他)、2003
- ・ 第1回島根県民文化祭ポスター、島根県内、2003
- ・ 第4回個展、島根県立美術館ギャラリー、2003
- ・ 『WONDER SHIMANE⑲』(中海・廃船)、『WONDER SHIMANE⑳』(美保関・青石畳通り) 第63回関西美術文化展(大阪市立美術館) 関西美術文化努力賞、2003
- ・ 『moon phase』、『sun phase』 第64回美術文化展(東京都美術館他) 奨励賞受賞、2004
- ・ 『moon phase2005』、『sun phase2005』 第65回美術文化展(東京都美術館他)、2005
- ・ 『moon phase2005②』 第65回関西美術文化展(大阪市立美術館)、2005
- ・ 『moon phase2007』、『sun phase2007』 第67回美術文化展(東京都美術館他)、2007
- ・ 『a piece of city』 第56回中部美術文化展(愛知県美術館)、2007
- ・ 『a piece of city②』 第68回美術文化展(東京都美術館他)、2008
- ・ 『moon river』、『sun river』 第57回中部美術文化展(名古屋市博物館)、2008
- ・ 『with the moon』、『with the sun』 第65回記念現展(国立新美術館他)、2009
- ・ 『on the city』、『on the forest』 第38回中部現展(愛知県美術館)、2009
- ・ 『a piece of city③』、『a piece of city④』 第66回現展(国立新美術館他)、2010
- ・ 『fragment of nature①』、『fragment of city①』 第37回中部現展(名古屋市博物館)、2010
- ・ 第5回個展、名古屋市栄 アートスペース A1、2010
- ・ 『fragment of nature②』、『fragment of city②』 第67回現展(国立新美術館他)、2011
- ・ 『fragment-s①』、『fragment-s②』、『fragment-s③』 現展 DESIGN EXHIBITION 2011 (ギャラリー八重洲・東京)、2011
- ・ 『knitting light』 第37回こうべ市民美術展(兵庫県立美術館原田の森ギャラリー) 神戸市民文化振興財団賞、2012
- ・ 『on the harbor』、『on the park』 第68回現展(国立新美術館他)、2012
- ・ 『fragment of city③』 第50回(兵庫)県展(兵庫県立美術館原田の森ギャラリー)、2012
- ・ 『fragment-s④』、『fragment-s⑤』 現展 DESIGN EXHIBITION 2012 (ギャラリー八重洲・東京)、2012
- ・ 『fragment-b』 第69回現展(国立新美術館他)、2013
- ・ 『fragment-Kobe』 現展 DESIGN EXHIBITION 2013 (ギャラリー八重洲・東京)、2013
- ・ 『fragment-k』 第39回現代童画展(東京都美術館)、2013
- ・ 『wistful』 第40回現代童画展(東京都美術館)、2014
- ・ 『20』 第40回こうべ市民美術展(兵庫県立美術館原田の森ギャラリー)、2015
- ・ 『moon phase』 第63回芦屋市展(芦屋市美術博物館)、2015
- ・ 『pour into』 第70回現展(国立新美術館他)、2015
- ・ 第6回個展、神戸市中央区 ギャラリー北野坂、2015
- ・ 『fragment of KOBE』 第72回現展(国立新美術館他)、2016

- 『fragment of Osaka⑥』、『fragment of Osaka⑦』 第 24 回全国サムホール公募展（東京有楽町・東京交通会館）、2020

〔 名前 〕 俵谷 好一

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 教育学士

〔 担当科目 〕 体育科指導法 教育実習(小) 特別活動指導法
保育実践学習Ⅲ・Ⅳ 教職実践演習 卒業論文Ⅱ

〔 専門分野 〕 教育学 体育科教育

〔 学外活動 〕 社会福祉法人善友会特別老人擁護ホーム梅香苑評議員
児童いきいき放課後事業運営管理委員(令和 2 年度)

〔 主な教育・研究業績 〕

低学年のボールゲーム教材開発と指導実践の一考察(平成 2 年)

ボール運動領域の指導の実践における教材資料の作成(平成 5 年)

学校園における固定遊具の安全確保に関する手引きの作成(平成 1 8 年)

平成 2 年 文部省教職員等中央研修受講

平成 3 年 文部省長期海外研修派遣(ドイツ・ベルギー・アメリカ)

平成 5 年 大阪市立中央小学校にて大阪市教育委員会指定体育科研究学校の研究基調
発表

平成 6 年 体育科における「有益な調査研究」にて、大阪市長・大阪市教育委員会委員
長より表彰受賞

平成 7 年 大阪市教育委員会事務局指導部指導主事として全市小学校の体育授業向上
にむけての指導助言

平成 12 年 大阪市立栄小学校長として人権総合学習研究学校発表会の開催

平成 23 年 文部科学大臣表彰「教育者」賞受賞

平成 24 年 大阪市長・大阪市教育委員会委員長より「職務精励」表彰受賞

平成 27 年 魅力ある道德教育の推進を執筆(大阪総合保育大学研究紀要第 10 号)

平成 29 年 小学校における体育と道德の合科的な学習の事例提案を執筆(大阪総合保
育大学研究紀要第 12 号)

その他 平成 16 年大阪市教育委員会事務局指導部養護教育課長、平成 17 年大阪市
教育委員会事務局指導部初等教育課長、平成 19 年大阪市立開平小学校長、
平成 21・22 年大阪市立小学校長会会長を歴任

- 〔 名前 〕 田 窪 豊
- 〔 職位 〕 教授 学生部部長
- 〔 保有学位 〕 修士（学校教育学）
- 〔 担当科目 〕 国語科指導法 国語 生徒指導・進路指導法
総合基礎演習Ⅱ 卒業論文
- 〔 専門分野 〕 国語科教育 読書教育
- 〔 学外活動 〕 全国大学国語教育学会会員 日本国語教育学会会員
全国小学校国語教育研究会・顧問
大阪・国語教育探究の会 副代表
- 〔 主な教育・研究業績 〕
- 〈著書〉
- 1 「子どもを生かす学校図書館」タイムス 1987 年・大阪市小学校教育研究会学校図書館部 編（共著）
 - 2 「国語教材研究大辞典」明治図書 1992 年・国語教育研究所 編（共著）
 - 3 「基礎・基本が育つ短作文ステップ学習 小学 3 年」明治図書 1995 年・大阪市小学校教育研究会国語部 編（共著）
 - 4 「実践国語教育研究 別冊No.152 基礎・基本が育つ国語科の授業」明治図書 1995 年・全国国語教育実践研究会 編（共著）
 - 5 「子どもとひろく国語科学習材・作文編」明治図書 1999 年・中渕正堯 国語教育探究の会 著（共著）
 - 6 「平成子どもおもしろ学」タイムス 2001 年・石田光 編著（共著）
 - 7 「実践国語教育研究 別冊No.230 主体的にことばで『伝え合う力』を高める国語科学習ー生きてはたらくコミュニケーション能力の育成ー」明治図書 2002 年・大阪市小学校教育研究会国語部 編（共著）
 - 8 「文学・説明文の授業展開 全単元 小学校高学年」学事出版 2012 年 長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣 編（共著）
 - 9 「『新たな学び』を支える国語の授業 下 思考力・判断力・表現力の育成を目指して」三省堂 2013 年 中渕正堯監修 吉川芳則・長崎伸仁・尾川佳己 編著（共著）
 - 10 「主体的な〈読者〉に育てる小学校国語科の授業づくり」明治図書 2016 年中渕正堯・吉川芳則 編著（共著）

〈論文〉

- 1 「『見通し』をきたえようー小数のかけ算ー」『教育科学 算数教育』明治図書 1989 年
- 2 「山路兵一の読み方学習指導ー内発的動機づけに着目してー」『国語教育探究 第2号』国語教育探究の会 1991 年
- 3 「国語科学習指導論ー山路兵一の理論と実践を中心にー」(兵庫教育大学学位論文) 1992 年
- 4 「コース別に技能を習得する作文の指導について」『天王寺 教育ノート 第22巻第1号』大阪教育大学附属天王寺小学校教育研究会 1993 年
- 5 「子どもと創る『本校ガイド』の実践」『国語教育探究第4号』国語教育探究の会 1995 年
- 6 「天気予報の文章の述べ方を比較するー比較によって助詞・助動詞などの働きに気付かせる指導ー」『学校教育 938 号』広島大学附属小学校内学校教育研究会 1995 年
- 7 「『つながり』や継続を大切にした創作学習」『月刊国語教育研究 412 号』日本国語教育学会 2006 年
- 8 「大阪市児童文集『大阪の子』を生かす作文指導ー『目的・意義』『題材・取材』『主題・要旨』の観点からー」『国語教育探究 27 号』国語教育探究の会 2014 年
- 9 「『読むこと』の授業づくりー“対話的な学びを深める”発問の工夫(説明的な文章をとおして)ー」『実践国語研究 No.345』明治図書 2017 年

〈研究発表〉

- 1 「見通しをもって問題を解決させる指導についての一考察ー高学年の数と計算の領域を中心にー」日本数学教育学会・静岡大会 1988 年
- 2 「山路兵一の読方学習態度論」全国大学国語教育学会・群馬大会 1991 年
- 3 「区切りや中心を考え、よく観察して表現する力を伸ばす指導」全国小学校国語教育研究大会・大阪大会 1993 年
- 4 「比較によって助詞、助動詞などの働きに気付かせる指導」全国国語教育実践研修会・大阪大会 1994 年

〔 名前 〕 浅野 孝平

〔 職位 〕 児童保育学部 乳児保育学科 教授

〔 保有学位 〕 博士 (医学)

〔 担当科目 〕 理科 (児童保育学科)
健康教育指導法Ⅰ (児童保育学科)
教育実習 (小) (児童保育学科)
卒業論文Ⅰ (児童保育学科)
保育実践学習Ⅰ、Ⅱ (乳児保育学科)
総合基礎演習Ⅰ (乳児保育学科)
研究指導 (大学院)

〔 専門分野 〕 認知神経科学 教育学 理科教育 学習障害

〔 学外活動 〕 日本神経科学学会 日本心理学会
日本ヒト脳機能マッピング学会
京都大学こころの未来研究センター 研究員

〔 主な教育・研究業績 〕

【学術論文 (査読あり)】

Increased grey matter volume of the right superior temporal gyrus in healthy children with autistic cognitive style: A VBM study

Akiko Kobayashi Susumu Yokota Hikaru Takeuchi Kohei Asano Michiko Asanoa Yuko Sassa Yasuyuki Taki Ryuta Kawashima
Brain and Cognition 139 105514, 2020

Association between resting-state functional connectivity and reading in two writing systems in Japanese children with and without developmental dyslexia

Teruo Hashimoto, Hiroki Higuchi, Akira Uno, Susumu Yokota, Kohei Asano, Yasuyuki Taki, Ryuta Kawashima
Brain Connectivity, 10 (6) 254-266, 2020

Impact of frequency of internet use on development of brain structures and verbal intelligence: Longitudinal analyses.

Hikaru Takeuchi, Yasuyuki Taki, Kohei Asano, Michiko Asano, Yuko Sassa, Susumu Yokota, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima
Human brain mapping 39 (11) 4471-4479, 2018

Impact of videogame play on the brain's microstructural properties:

Cross-sectional and longitudinal analyses

Hikaru Takeuchi, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Kohei Asano, Michiko Asano, Yuko Sassa, Susumu Yokota, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima

Molecular Psychiatry 21 (12) 1781-1789, 2016

Impact of reading habit on white matter structure: Cross-sectional and longitudinal analyses.

Hikaru Takeuchi, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Kohei Asano, Michiko Asano, Yuko Sassa, Susumu Yokota, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima

NeuroImage 133 378-389, 2016

Parental Praise Correlates with Posterior Insular Cortex Gray Matter Volume in Children and Adolescents

Izumi Matsudaira, Susumu Yokota, Teruo Hashimoto, Hikaru Takeuchi, Kohei Asano, Michiko Asano, Yuko Sassa, Yasuyuki Taki, Ryuta Kawashima

PLOS ONE 11(4) e0154220, 2016

The impact of television viewing on brain structures: cross-sectional and longitudinal analyses.

Hikaru Takeuchi, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Kohei Asano, Michiko Asano, Yuko Sassa, Susumu Yokota, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima

Cerebral cortex 25 (5) 1188-97, 2015

The impact of parent-child interaction on brain structures: cross-sectional and longitudinal analyses.

Hikaru Takeuchi, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Kohei Asano, Michiko Asano, Yuko Sassa, Susumu Yokota, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Ryuta Kawashima

The Journal of Neuroscience 35 (5) 2233-45, 2015

Correlations between brain structures and study time at home in healthy children: a longitudinal analysis

Michiko Asano, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Hikaru Takeuchi, Benjamin Thyreau, Yuko Sassa, Ryuta Kawashima

Brain and Behavior 4 (6) 801-811, 2014

Healthy children show gender differences in correlations between nonverbal cognitive ability and brain activation during visual perception

Kohei Asano, Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Yuko Sassa, Benjamin Thyreau, Michiko Asano, Hikaru Takeuchi, Ryuta Kawashima

Neuroscience Letters 577 66-71, 2014

Linear and curvilinear correlations of brain white matter volume, fractional anisotropy, and mean diffusivity with age using voxel-based and region-of-interest analyses in 246 healthy children.

Yasuyuki Taki, Benjamin Thyreau, Hiroshi Hashizume, Yuko Sassa, Hikaru Takeuchi, Kai Wu, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Michiko Asano, Kohei Asano, Hiroshi Fukuda, Ryuta Kawashima

Human brain mapping 34(8) 1842-56 2013

Sleep duration during weekdays affects hippocampal gray matter volume in healthy children.

Yasuyuki Taki, Hiroshi Hashizume, Benjamin Thyreau, Yuko Sassa, Hikaru Takeuchi, Kai Wu, Yuka Kotozaki, Rui Nouchi, Michiko Asano, Kohei Asano, Hiroshi Fukuda, Ryuta Kawashima

NeuroImage 60 (1) 471-5, 2012

(他 8 件)

【研究発表（国際学会、筆頭のみ）】

Japanese children with dyslexia showed reduced cortical volume in occipito-temporal junction that serves reading Kanji characters

Organization for Human Brain Mapping, Annual meeting 2015 年

アメリカ ハワイ

Verbal cognitive style correlates regional gray matter volume in the right cerebellum in children

Organization for Human Brain Mapping, Annual meeting 2013 年

アメリカ シアトル

Sex difference in the correlation between cognitive style and brain activity during delayed matching-to-sample task

Organization for Human Brain Mapping, Annual meeting 2011 年

カナダ ケベック

Correlation between cognitive style and brain activity in delayed matching task in children

Organization for Human Brain Mapping Annual meeting 2010 年

スペイン バルセロナ

Correlation of verbal IQ and performance IQ with the brain activation during delayed matching task in healthy children

Organization for Human Brain Mapping, Annual meeting, 2009 年

アメリカ サンフランシスコ

【著書】

- (共著)「理科の定番授業 小学校 6 年」佐々木昭弘 編著、2009、学事出版
- (共著)『授業でそのまま使える！子どもがグリーンと賢くなる面白小話・理科編』、佐々木昭弘編著、1994、明治図書
- (共著)『シリーズ日本型理科教育 理科でどんな「力」が育つかーわかりやすい問題解決論』、日置光久・矢野英明編、2007、東洋館出版社
- (共著)『小学校理科 板書とカードで見る全単元・全時間の授業のすべて 3 年』、日置光久監修、2005、東洋館出版社
- (共著)『教材研究—情報の収集と活用 アイディア (理科授業を面白くするアイデア大百科 12)』、森一夫・角屋重樹総監修、本田孝編集、1996、明治図書
- (共著)『小学校理科・事象提示 (170 選)』、本田孝編著、1994、ぎょうせい

【総説等】

- (単著) 発達性ディスレクシアの fMRI 研究、医学の歩み 270 巻 9 号、2019、pp.829-834、医歯薬出版株式会社
- (単著) 発達性ディスレクシアの脳機能画、Clinical Neuroscience 月刊臨床神経科学 Vol.33 8、2015、pp.950～953 中外医学社

【外部資金獲得】

- ・顎口腔機能低下に対する MRI を用いた 2 フェーズ即時応答リハビリ支援システムの開発、文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(B)、研究分担者、2019 – 2024
- ・加害者家族への差別・偏見を生み出す神経基盤の解明、文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(B)、研究分担者、2019 – 2023
- ・発達性ディスレクシアのオラリティに関する神経基盤の解明、文部科学省 科学研究費助成事業 若手研究、研究代表者、2018 – 2021
- ・集団間代理報復を生み出す集団間感情の神経基盤の解明 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(B)、研究分担者、2017 – 2020
- ・発達性ディスレクシアの読字に関わる神経基盤の解明 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2015 – 2019
- ・共同研究 東北大学加齢医学研究所 研究代表、2014

【受賞等】

- 2019 年 8 月 日本神経科学学会 マスコットキャラクター最優秀作品
- 2007 年 2 月 文部科学大臣優秀教員表彰
- 2006 年 2 月 福島県優秀教員表彰
- 1998 年 5 月 日本気象学会 ベストポスター賞候補

〔 名前 〕 平野 俊一郎

〔 職位 〕 教授

〔 保有学位 〕 博士（医学）

〔 担当科目 〕 健康教育 健康領域指導法Ⅰ 保育実践学習Ⅰ・Ⅱ
総合基礎演習Ⅰ 教育実習（幼） 卒業論文Ⅰ

〔 専門分野 〕 神経科学 機能再生医学 画像診断学 医学教育

〔 学外活動 〕 Society for Neuroscience, Regular Member
日本脳神経外科学会会員
日本再生医療学会会員
日本生理学会会員
歯科基礎医学会会員
日本歯科医学教育学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

< 著書（共著） >

吉峰俊樹、丸野元彦、平野俊一郎、平田雅之、二宮宏智、谷口理章、加藤天美、鎌田振吉、岡田 正. 脊髄脂肪腫摘出術と術中モニタリング. 「脳腫瘍の外科－胎生期組織由来腫瘍－（玉木紀彦、長嶋達也 編集）」 pp. 179–183, 1999

有田憲生、森 鑑二、山中一功、泉本修一、田村雅一、平野俊一郎、早川 徹. 優位半球側脳室三角部腫瘍に対する手術アプローチ. 「髄膜腫の外科（久保田紀彦 編集）」 pp. 148–154, 1997

< 論文（過去 10 年） >

Tetsuya Fujimoto, Hiroshi Inoue, Shun-ichiro Hirano, Seiji Goda: Effect of bisphenol A exposure on spontaneous behavior using the elevated plus maze test. Journal of Osaka Dental University 53(2):187–192, 2019

Takashi Ohshima, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Shun-ichiro Hirano, Yasuo Nishikawa: Effect of IL-12 family cytokines on NK92 cells. Journal of Osaka Dental University 51(2):115–123, 2017

Tetsuya Fujimoto, Hiroshi Inoue, Shun-ichiro Hirano, Kenji Uchihashi, Yasuo

Nishikawa: Prenatal exposure to bisphenol A induces behavioral and hormonal changes in pre-weaning rats. *Journal of Osaka Dental University* 51(2):125–129, 2017

Shun-ichiro Hirano, Tetsuya Fujimoto, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa: College students with high academic performance do not choose front-row seats in the classroom. *Journal of Osaka Dental University* 51(2):151–156, 2017

Shun-ichiro Hirano: The use of 40Hz-ASR can predict conscious outcome in patients with severe head injury in the early stage. *Journal of the Neurological Sciences* 357:e326, 2015

Ko Nosaka, Hiroshi Inoue, Shun-ichiro Hirano, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa: IL-17A inhibits osteoclast differentiation of RANKL-stimulated RAW264.7 cells by suppressing JNK phosphorylation and c-Fos expression. *Journal of Osaka Dental University* 48(2):117–124, 2014

Shun-ichiro Hirano, Tetsuya Fujimoto, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa: Chemiluminescence can be an indicator of the viability of transplanted neural stem cells from the rat subventricular zone. *Journal of Osaka Dental University* 48(2):141–149, 2014

Shun-ichiro Hirano, Momoka Ohashi, Rina Kakihara, Takeshi Suwabe, Tetsuya Fujimoto, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa: Ablation of rat substantia nigra may provide a good acute model of Parkinson's disease for stem cell transplantation. *Journal of Osaka Dental University* 47(1):11–19, 2013

Hiroshi Inoue, Takeshi Suwabe, Tetsuya Fujimoto, Shun - ichiro Hirano, Tetsuya Adachi, Takashi Ohshima, Kenji Uchihashi, Yi - ru Fang, Shu Meng, Lin Zhang, Lei Zhao, Ya - fei Wu, Yasuo Nishikawa: Mechanisms of NK cell activation stimulated by CD2; granzyme B is released by CD2 crosslinking – stimulation on NK92 cells. *Journal of Osaka Dental University* 46(2):229–235, 2012

Shu Meng, Lin Zhang, Lei Zhao, Yi-ru Fang, Tetsuya Fujimoto, Shun-ichiro Hirano, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa, Ya-fei Wu: Effects of C-reactive protein on CC chemokine receptor 2-mediated chemotaxis of monocytes. *DNA and Cell Biology* 31:30–35, 2012

Tetsuya Fujimoto, Takeshi Suwabe, Shun-ichiro Hirano, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa: Sex differences in odor-responding neurons of the rat medial amygdaloid area. *Journal of Osaka Dental University* 45(2):241–245, 2011

Atsuko Hasegawa, Chikako Yamada, Miho Tani, Shun-ichiro Hirano, Yasuhito Tokumoto, Jun Miyake: Caspase inhibitors increase the rate of recovery of neural stem/progenitor cells from post-mortem rat brains stored at room temperature. *Journal of Bioscience and Bioengineering* 107:652–657, 2009

<学会発表（過去 10 年）>

Shun-ichiro Hirano. The 40Hz-ASR may be a good predictor of conscious outcome in patients with severe head injury. 9th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies (FAOPS) Congress (FAOPS 2019), March 30, 2019, Kobe, Japan

Shun-ichiro Hirano. Exploratory trial to determine an optimum parameter set for real-time neuromonitoring in cerebellopontine angle surgery. XXIV World Congress of Neurology (WCN 2019), October 30, 2019, Dubai, United Arab Emirates

Shun-ichiro Hirano, Yasuo Nishikawa. A real-time processing technique for 40 Hz auditory steady-state response: Exploratory application in cerebellopontine angle surgery. The 48th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2018), November 3, 2018, San Diego, California, USA

Shun-ichiro Hirano. Evoked EMG can identify each ventral root in spinal surgery: The introduction of an accurate and inexpensive technique. XXIII World Congress of Neurology (WCN 2017), September 17, 2017, Kyoto, Japan

Shun-ichiro Hirano, Yasuo Nishikawa. A real-time processing technique for 40 Hz auditory steady-state response: The parameters and effect of surgical interventions. The 47th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2017), November 13, 2017, Washington D.C., USA

Shun-ichiro Hirano. The auditory steady-state response can be a predictable index of conscious outcome in patients with severe head injury in the early stage. The 46th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2016), November 16, 2016, San Diego, California, USA

Tetsuya Fujimoto, Shun-ichiro Hirano, Yasuo Nishikawa. Pre-weaning behavioral manners in prenatal Bisphenol A treated rats. The 45th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2015), October 18, 2015, Chicago, Illinois, USA

Shun-ichiro Hirano. The use of 40Hz-ASR can predict conscious outcome in patients with severe head injury in the early stage. XXII World Congress of Neurology (WCN 2015), November 2, 2015, Santiago, Chile

Shun-ichiro Hirano, Tetsuya Fujimoto, Hiroshi Inoue, Kenji Uchihashi, Yasuo Nishikawa. Flow dynamics of classroom seating positions may predict achievement outcome in dental hygiene college students. The 44th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2014), November 15, 2014, Washington D.C., USA

Shun-ichiro Hirano, Yasuhito Tokumoto, Yasuo Nishikawa. Ablation of rat substantia nigra is a good acute model of Parkinson's disease for cell transplantation therapy. XXI World Congress of Neurology (WCN 2013), September 25, 2013, Vienna, Austria

Shun-ichiro Hirano, Yasuhito Tokumoto, Yasuo Nishikawa. An acute model of Parkinson's disease created by the ablation of rat substantia nigra. The 42nd Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2012), October 17, 2012, New Orleans, Louisiana, USA

Shun-ichiro Hirano, Yasuhito Tokumoto, Yasuo Nishikawa. Ablation of rat substantia nigra may provide a good acute model of Parkinson's disease for stem cell transplantation. XXth World Congress of Neurology (WCN2011), November 13, 2011, Marrakesh, Morocco

Shun-ichiro Hirano, Yasuhito Tokumoto, Yasuo Nishikawa. Dynamic observation of a transplanted neurosphere in ablated rat substantia nigra by bioluminescence. The 40th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2010), November 13, 2010, San Diego, California, USA

Shun-ichiro Hirano, Yasuhito Tokumoto. Caspase inhibitors preserve the neural stem/progenitor cells from post-mortem rat brains stored at room temperature. The 39th Annual Meeting of Society for Neuroscience (Neuroscience 2009), October 20, 2009, Chicago, Illinois, USA

〔 名前 〕 高 田 昭 夫

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 教育学修士

〔 担当科目 〕 障害児保育
知的障害教育論Ⅰ
知的障害教育論Ⅱ
知的障害者の心理・生理・病理
重複障害者等の心理・生理・病理他

〔 専門分野 〕 特別支援教育

〔 学外活動 〕 日本特殊教育学会
大阪府立支援学校学校協議会協議委員
大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会選定委員
日本ヘレンケラー財団 理事
大阪知的障がい者スポーツ協会 理事
指導員研修会講師（放課後児童健全育成事業）
トミオカ児童発達・放課後等デイサービスアドバイザー

他、多数

〔 主な教育・研究業績 〕

(学術論文等)

農業体験活動「夢農場ミラクル」の軌跡 共著 平成21年12月 大阪教育大学障害児教育研究紀要、32, pp, 135-148

守屋（2009）が提唱しているライフシェアリング活動の一環として、大阪教育大学附属特別支援学校が開始した週末の農業体験活動「夢農場ミラクル」について報告・検討したものである。この農業体験活動は「生きる力」の育成を目指した余暇支援活動であり、週末に在校生も卒業生も家族連れで大学の学生たちと農業体験を楽しむことができる。本論文ではこれまでの活動の経過を報告し、その意義を自我発達やキャリア教育等の観点から考察してみた。

農業体験活動「夢農場ミラクル」の軌跡Ⅱ 共著 平成22年12月 大阪教育大学障害児教

育研究紀要、33, pp, 73-88.

守屋（2009）が提唱しているライフシェアリング活動の一環として、大阪教育大学附属特別支援学校が開始した週末の農業体験活動「夢農場ミラクル」について報告・検討したものである。この農業体験活動は「生きる力」の育成を目指した余暇支援活動であり、週末に在校生も卒業生も家族連れで大学の学生たちと農業体験を楽しむことができる。本論文では、2年目の活動の経過の中から、生徒と保護者の変化を取り上げ、自我発達やキャリア教育等の観点から考察してみた。

自閉症教育の歴史 単著 平成22年11月 発達人間学研究 12 巻 1 号 pp. 17-24

特別支援学校在籍者の約3割が自閉症であると言われているが、これらの子どもたちは自閉症ではなく知的障害としての教育的対応をされているという現実がある。自閉症の子どもの多さと共に、知的障害とは異なる自閉症の障害特性及び自閉症の子どもの持つ困難性から、自閉症に対応した効果的な指導内容と指導方法について具体的に検討する必要がある。こうした状況をふまえ、知的障害を伴う自閉症を中心に、知的障害と自閉症の障害の違いや障害特性に応じた対応の在り方を自我発達の観点から考察した。

農業体験活動を導入した特別支援教育の教員養成の試み（1）共著 平成25年11月 発達人間学研究 14 巻 1 号 pp. 13-23

大阪総合保育大学（以下、本学と記す）では、保育士・幼稚園教員・小学校教員・特別支援教育教員の免許を取得することができる。本学学生の中で、特別支援教育教員免許取得を希望するものの中から学力における上位50名が本課程に進むことができる。特別支援教育教員免許状取得のための授業の一つに、河内長野「はぐくみ農場」で農業体験活動を行う「特別支援教育総合演習」がある。本活動は、障害のある本人とその家族と農業を共に体験することによって、教員の資質に関わって重要なことを学ぶことができる場の一つである。

本論文では、急激な社会の変化に伴い、現在の教育における課題に向き合い、教員になるための重要となる資質について考える上で、農業体験活動の意義を検証し、教員を目指す学生に必要な資質（教員養成における重要な観点）についての一考察となると考えた。

〔 名前 〕 渡辺 俊太郎

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 博士（心理学）

〔 担当科目 〕 教育心理学 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ
臨床心理学研究Ⅰ 臨床心理学研究Ⅱ
教育心理学特論 臨床心理学演習 論文指導

〔 専門分野 〕 心理学 臨床心理学

〔 学外活動 〕 大阪教育大学非常勤講師
城南学園中学校・高等学校教育相談員
日本心理学会会員 日本健康心理学会会員
日本カウンセリング学会会員 日本保育学会会員
日本保育ソーシャルワーク学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

【著書】

渡辺俊太郎（2008）. 怒りの健康への影響—怒りは健康を害するのか— 湯川進太郎（編） 怒りの心理学—怒りとうまくつきあうための理論と方法— 有斐閣 pp. 75-94.

大阪総合保育大学総合保育研究所子育て支援プロジェクト編著・渡辺俊太郎監修（2015）. 子育て支援のいまとこれから—大阪府下の保育所・幼稚園での実態調査から— ふくろう出版

渡辺俊太郎（2016）. 認知行動療法 菊野春雄（編） 乳幼児の発達臨床心理学—理論と現場をつなぐ— 北大路書房 pp. 201-215.

渡辺俊太郎（2019）. 子どもの悩みを理解しようとするチカラ 古川聡（編） 教育心理学をきわめる10のチカラ（改訂版） 福村出版 pp. 149-164.

【論文】

渡辺俊太郎・小玉正博（2001）. 怒り感情の喚起・持続傾向の測定—新しい怒り尺度の作成と信頼性・妥当性の検討— 健康心理学研究, **14**, 32-39.

Watanabe, S. & Kodama, M. (2002). The role of anger lengthiness in the relationship between anger and physiological responses in Japanese college students. *Japanese Health Psychology*, **10**, 33-44.

渡辺俊太郎（2002）. 心理療法における査定と見立ての重要性—赤面を訴えて来談した青年の事例を通して— 筑波大学臨床心理学論集, **7**, 3-7.

渡辺俊太郎・小玉正博（2003）． 怒り持続傾向を低減させ得る怒り対処－見返し対処行動に関する予備的検討－ 筑波大学臨床心理学論集， **18**， 31-42.

渡辺俊太郎・小玉正博（2004）． 怒りと健康に関する研究の動向と今後の課題 筑波大学心理学研究， **27**， 83-97.

渡辺俊太郎（2004）． 怒り感情が心身の健康に及ぼす影響に関する研究 筑波大学大学院心理学研究科博士論文

渡辺俊太郎（2007）． 大学生の抱く怒りイメージと怒り持続傾向・怒り対処との関連－テキストマイニングによる怒りイメージに関する自由記述の分析－ 大阪総合保育大学紀要， 創刊号， 77-88.

渡辺俊太郎・大方美香・栗山誠・要正子（2009）． 大学による地域子育て支援の試み－養育者を対象としたプログラムと子育て相談活動の実践－ 大阪総合保育大学紀要， **3**， 113-124.

渡辺俊太郎・佐伯知子・森下規代子（2010）． 現場での学びを活かした保育士・教員の養成－全学年における年間インターンシップ実習の取組－ 大阪総合保育大学紀要， **4**， 157-172.

渡辺俊太郎・馬場住子・楠本洋子（2019）． 支援が必要と考えられる保護者に対する保育者の取り組み－アンケート調査における成功事例、困難要因、今後必要な取り組み－ 大阪総合保育大学紀要， **13**， 25-35.

〔 名前 〕 佐伯 知子

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 教育学修士

〔 担当科目 〕 教育原理 教育者論
家庭支援論
卒業論文
教育方法学特殊講義Ⅱ
生涯教育学研究

〔 専門分野 〕 生涯教育学

〔 学外活動 〕 日本社会教育学会会員
日本比較教育学会会員
日本学習社会学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕 ※ 過去5年分
(著書)

- ・ 「生涯学習の学習評価と成果の活用」前平泰志監修・渡邊洋子編著『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房、平成26年、153～168頁
- (論文)
- ・ 「IPE(Inter-Professional Education)をめぐる経緯と現状、課題－医療専門職養成の動向を中心に－」『京都大学生涯教育フィールド研究』第2巻、平成26年、9～19頁
- ・ 「長期的インターンシップ実習における継続性／非継続性の要因に関する研究－保育・教育系学生の縦断的アンケート調査を手がかりに－」『大阪総合保育大学紀要』第8号、平成27年、43～56頁
- ・ 「保育・教育系学生による実習目標の設定・見直しに関する研究－大阪総合保育大学の長期インターンシップ実習における取り組み－」『大阪総合保育大学紀要』第10号、平成28年、31～41頁
- ・ 「『交流型 IPE (InterProfessional Education)』のプログラム開発経験による学び－会議録のテキスト分析より－」『京都大学生涯教育フィールド研究』第5巻、平成29年、31～40頁

〔 名前 〕 要 正子

〔 職位 〕 専任講師

〔 保有学位 〕 文学修士

〔 担当科目 〕 学校カウンセリング 発達心理学
保育の心理学Ⅰ 保育の心理学Ⅱ
保育実践学習Ⅰ 総合基礎演習
卒業論文Ⅰ・Ⅱ

〔 専門分野 〕 心理学 臨床心理学

〔 学外活動 〕 関西心理学会会員 日本教育心理学会会員
日本心身医学会会員 日本小児心身医学会会員
日本臨床心理士会会員 日本心理臨床学会会員
大阪府臨床心理士会会員
坂越学園キンダーカウンセラー

〔 主な教育・研究業績 〕

- ・「学生・教師のための教育心理学」（分担執筆）田研出版 1995
- ・「教育心理学」大阪芸術大学通信教育部（分担執筆）2002
- ・「CG コラージュ療法の小児・青年期心身症患者への適用」（共著） 関西大学社会学部
紀要第32巻第3号 2001
- ・「大学による地域子育て支援の試みー養育者を対象としたプログラムと子育て相談活動
の実践ー」（共著）大阪総合保育大学研究紀要第3号 2009

〔 名前 〕 東城 大輔

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 修士（教育学）

〔 担当科目 〕 保育者論 教育実習（幼） 保育指導法Ⅰ
教職実践演習（幼・小） 保育実践学習Ⅰ・Ⅱ
卒業論文Ⅰ・Ⅱ

〔 専門分野 〕 幼児教育学

〔 学外活動 〕 大阪教育大学 非常勤講師
大阪城南女子短期大学 非常勤講師
日本保育学会会員、日本保育者養成教育学会会員
日本乳幼児教育学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

< 著書 >

- （共著）『幼稚園・保育所のいいところを見つめなおす～こども園の在り方を軸にして～』ふくろう出版，2018，大阪総合保育大学総合保育研究所幼保一体化プロジェクト編著
全編編集責任および、序「二つの保育の併存状態での課題」4頁～8頁、1章「認定こども園における課題の整理」9頁～22頁、10章「新制度で問われる保育概念」118頁～133頁、終章「認定こども園の実践が生み出すもの」136頁～141頁
- （共著）『保育の学びファーストステップ』青踏社，2018，瀧川光治・小栗正裕・宮地あゆみ編著
第7章「保育の環境」69頁～78頁
- （共著）MINERVAはじめて学ぶ保育3『保育者論』ミネルヴァ書房，2019，名須川知子／大方美香監修
山下文一編著 第2章レッスン5「子どもの発達と保育者の関わり」59頁～67頁 他

< 研究業績 >

- （単著）「私立幼稚園における幼小連携を意識した取り組みの可能性～お兄ちゃん先生・お姉ちゃん先生生活を手がかりに～」2013，大阪総合保育大学研究紀要第8巻
- （共著）「保育・教育系学生による実習目標の設定・見直しに関する研究－大阪総合保育大学の長期インターンシップ実習における取り組み－」2015，佐伯知子・藤田朋己・東城大輔・依谷好一・田窪豊・高田昭夫・大方美香 大阪総合保育大学研究紀要第10巻
- （単著）「「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育実践の意味づけ－“動物園ごっこ”における事例検討を通して－」2018，大阪総合保育大学研究紀要第12巻 他

< 教育業績 >

- 学校法人千里山学院 認定こども園千里山グレース幼稚園 理事（2010～）
- 大阪府協議会幼稚園教育理解推進事業「幼稚園教育と小学校教育との接続について」指導講評・講演（2018）
- 四條畷市保幼小中連携担当者研修会講師（2018～）
- 泉大津市幼保認小接続研究委員会講師（2018～） 他

〔 名前 〕 高根 栄美

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 教育学修士

〔 担当科目 〕 乳児保育、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、
総合保育論、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
保育実践研究Ⅱ、研究指導（博士前期課程）

〔 専門分野 〕 乳幼児教育学、保育学

〔 学外活動 〕

（所属学会） 日本乳幼児教育学会会員、日本保育学会会員、こども環境学会会員、
関西教育学会会員、日本保育者養成教育学会会員

（講演・講師） 社会福祉法人施設職員研修講師、各自治体主催保育士研修講師、
教育庁保育者研修講師 その他

〔 主な教育・研究業績 〕

（直近の著書等）

- ・ 社会福祉法人日本保育協会監修 大方美香編著（共著）（2018）『失敗から学ぶ 保護者とのコミュニケーション 保育わかば BOOKS』中央法規出版
- ・ 咲間まり子編（共著）（2017）『保育原理－はじめて保育の扉をひらくあなたへー』株式会社みらい
- ・ 公益財団法人児童育成協会監修（共著）（2016）『保育実習 基本保育シリーズ②』中央法規出版

以上

〔 名前 〕 清田 岳臣

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 博士（医学）

〔 担当科目 〕 子どもの保健Ⅰ・Ⅱ
幼児理解
健康教育
子どもと健康特殊講義

〔 専門分野 〕 運動生理学
発達科学

〔 学外活動 〕 日本生理人類学会（評議員）
日本健康行動科学会（理事・編集委員長）
日本体育学会
日本臨床神経生理学会
Society for Neuroscience

〔 主な教育・研究業績 〕

（著書）

藤原勝夫，清田岳臣(2015). 一側優位性. 日本生理人類学会編 人間科学の百科事典，丸善出版，東京,164-165

清田岳臣，藤原勝夫(2011). 奥行き知覚と姿勢制御. 藤原勝夫編著，姿勢制御の神経生理機構；第3章3節-2「奥行き知覚と姿勢制御」，杏林書院, 96-98.

藤原勝夫，清田岳臣(2011). 床振動時の姿勢制御. 藤原勝夫編著，姿勢制御の神経生理機構；第5章7節-4「床振動時の姿勢制御」，杏林書院, 183-185.

藤原勝夫，宮本路恵，清田岳臣(2008). 高齢者の平衡機能訓練. 運動・認知機能改善へのアプローチ ～子どもと高齢者の健康・体力・脳科学～，市村出版，東京, 81-91

（論文）

藤原勝夫・清田直恵・外山寛・伊禮まり子・中村天・中村彩・清田岳臣・黒川望.(2019) 高齢者における森歩き運動と水中運動の健康増進効果. Health and Behavior Sciences, 17(2) 67-76

藤原勝夫，清田岳臣(2017). 子どもの姿勢制御の発達. 子どもと発育発達 15(2),124-130

清田岳臣，藤原勝夫，国田賢治，阿南浩司，矢口智恵 (2017). 上肢屈曲運動時の姿勢変換型の発達的变化. Health and Behavior Sciences 16(1),15-21.

- Kiyota T, Fujiwara(2014). Dominant side in single-leg stance stability during floor oscillations at various frequencies. *Journal of Physiological Anthropology*, 33(1): 25.
- Fujiwara K, Kiyota T, Mammadova A, Yaguchi C (2011). Age-related changes and sex differences in postural control adaptability in children during periodic floor oscillation with eyes closed. *Journal of Physiological Anthropology*, 30(5):187-194.
- Kunita K, Fujiwara K, Kiyota T, Anan K, Kaida C (2011). Trunk and pelvis inclination movement angles in the frontal plane in single stance phase during stepping in place. *Health and Behavior Sciences*, 9,101-106
- Kiyota T, Fujiwara K, Toyama H, Kiyota N, Kunita K, Maeda K, Katayama M (2009). Determination of disturbance parameters of forward floor translation for balance training to prevent falling. *Health and Behavior Sciences*, 8: 9-16
- Kiyota T, Fujiwara K (2008). Postural sway and brain potentials evoked by visual depth stimuli. *International Journal of Neuroscience*, 118:935-954
- Fujiwara K, Kiyota T, Maeda K, Horak F (2007). Postural control adaptability during floor oscillation in the elderly. *Journal of Physiological Anthropology*, 26(4):485-493
- Fujiwara K, Toyama H, Kiyota T, Maeda K (2006). Postural muscle activity patterns during standing at rest and on an oscillating floor. *Journal of Electromyography and Kinesiology*, 16:448-457

(他 論文 2 2 件)

(発表) (海外 筆頭のみ)

- T. KIYOTA, K. FUJIWARA, K. KUNITA, K. ANAN, C. YAGUCHI. Developmental changes in postural movement patterns during bilateral arm flexion in children, Society for Neuroscience, U.S.A
- Kiyota T, Fujiwara K, Kunita K, Anan K, Yaguchi C (2015). Developmental changes from childhood to adolescence in activation patterns of postural muscles during bilateral arm flexion. Society for Neuroscience 45th Annual meeting, Chicago, U.S.A
- Kiyota T, Fujiwara K (2013). Laterality of the postural steadiness during one-leg stance in static and dynamic balance condition. Society for Neuroscience 42th Annual meeting, New Orleans, U.S.A.
- Kiyota T, Fujiwara K, Kunita K, Irei M, Anan K. Activation patterns of postural muscles during bilateral arm flexion in childhood. Society for Neuroscience 40th Annual Meeting, San Diego, U.S.A
- Kiyota T, Fujiwara K. Postural responses and brain potentials evoked by depth perception stimulus. Society for Neuroscience 35th Annual Meeting, Washington, U.S.A.

Kiyota T, Fujiwara K. Development of the adaptability of anticipatory postural control while floor oscillation in children. XIVth Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology, Vienna, Austria.

(他 発表 7 3 件)

〔 名前 〕 春高 裕美

〔 職位 〕 准教授

〔 保有学位 〕 修士（看護学）

〔 担当科目 〕 子どもの保健Ⅱ 保育実習指導Ⅰ
子ども家庭福祉 保育実践学習Ⅰ
卒業論文 基礎総合演習Ⅰ

〔 専門分野 〕 保育保健 子どもの保健 助産学 看護学

〔 学外活動 〕 日本保育学会 日本保育文化学会 日本保育園保健学会
全国保育園保健師看護師連絡協議会
赤間福祉会評議員
山口県他 3 県 2 政令市保育士等キャリアアップ研修講師
教職員研修会講師（幼稚園連盟・保育士会・学童保育等）
保育所等第三者評価委員・子ども子育て会議構成員等歴任

〔 主な教育・研究業績 〕

【著書】

- ・「教職論」（分担執筆）ミネルヴァ書房 2017
- ・「保育所実習・幼稚園教育実習」（分担執筆）保育出版会 2018
- ・「福岡県保育士等キャリアアップテキスト」（分担執筆）福岡県 2018
- ・「保育士重要項目 2019」（分担執筆）成美堂出版 2018
- ・「保育士重要項目 2020」（分担執筆）成美堂出版 2019

【論文】

- ・春高裕美（2012）保育所における「けいれんのチェックリスト」実用化に向けての実態調査 九州女子大学紀要 48(2), 19-35
- ・春高裕美他（2014）九州女子大学における学生ボランティア事業の現状と課題：幼稚園・保育所グリーンティーチャーの派遣 九州女子大学紀要 51(1), 25-38
- ・中山智哉，渡邊望，春高裕美，木山徹哉（2014）母親の育児感情に影響を及ぼす要因の探索的検討：母親の育児方法・育児への省察および保育相談支援との関連 九州女子大学紀要 50(2), 15-29
- ・春高裕美他（2015） 妊娠・出産時の経験と就園後の子育て意識 保育文化研究 (1), 1-12
- ・春高裕美・中村恵美（2019）保育所における母乳育児支援に関する文献検討 保育文化研究 (9), 15-27

- ・春高裕美・中村恵美（2019）保育所における母乳育児支援の実態と課題(第1報)
冷凍母乳の管理の現状を中心に 保育文化研究 (9), 15-27

〔 名前 〕 深田 直子

〔 職位 〕 専任講師

〔 保有学位 〕 教育学修士

〔 担当科目 〕 音楽（器楽）
音楽演習Ⅱ
総合基礎演習
卒業論文Ⅰ・Ⅱ

〔 専門分野 〕 器楽（ピアノ）
音楽教育学

〔 学外活動 〕 全国大学音楽教育学会会員
兵庫教育大学 音楽教育学会

〔 主な教育・研究業績 〕

平成 5 年～平成 24 年 幼稚園児へのピアノを中心とした音楽的感性の発達を見る
ための音楽指導

平成 8 年 11 月～現在（年 1 回） Piano Concert を企画・出演

平成 5 年 6 月 東貞一ピアノ研究会演奏会・ピアノの夕べ（フェスティバルホール）

平成 6 年 11 月 8Young Pianists Concert（音楽の友ホール）

平成 8 年 6 月 樹久の会コンサート（豊中アクア文化ホール）

平成 9 年 7 月 平和堂楽器主催 ピアノコンサート
（守口門真商工会館 市民ホール）

平成 9 年 9 月 樹久の会コンサート（メイシアター 中ホール）

平成 8 年 10 月 SIX PIANO DUETS in Autumn（宝塚ベガホール）

平成 10 年 9 月 樹久の会コンサート（豊中ゆやホール）

平成 10 年 10 月 アルベルト・ヒナステラ没後 15 年 日曜の午後の出会い
（宝塚ベガホール）

平成 12 年 3 月 RULI PIANO CONCERT（池田市民文化会館 小ホール）

平成 13 年 11 月 秋のロマン派 Piano Recital（宝塚ベガホール）

平成 14 年 3 月 新世音楽協会 研究発表会（尼崎市立労働福祉会館 大ホール）

平成 14 年 7 月 新世音楽協会 研修発表会（伊丹アイフォニックホール）
平成 14 年 10 月 新世音楽協会 研究発表会（ローズ文化ホール）
平成 15 年 10 月 ピアノ協奏曲の夕べ 関西フィルハーモニー管弦楽団と共演
(いずみホール)
平成 18 年 3 月 3 Concertos for Piano and Orchestra
ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団と共演
(大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウス)
平成 22 年 3 月 2 人のリサイタル（兵庫県立芸術文化センター 小ホール）
他多数出演

全国大学音楽教育学会 関西地区大会にて学会発表
平成 28 年度 後期研究会 ドヴォルザーク作曲 『スラブ舞曲』 Op.72-2・Op72-7
平成 29 年度 後期研究会 篠原 真作曲 『五つの風景』
平成 30 年度 前期研究会 ドビュッシー作曲 『小組曲』より「小舟にて」「行列」
平成 30 年度 後期研究会 ドビュッシー作曲 『小組曲』より「メヌエット」
「バレエ」

〔 名前 〕 末次有加

〔 職位 〕 講師

〔 保有学位 〕 博士（人間科学）

〔 担当科目 〕 子どもの人権、特別支援教育総論、
人間関係領域指導法Ⅱ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、
保育実習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ

〔 専門分野 〕 教育社会学、インクルーシブ保育・教育

〔 学外活動 〕 日本教育社会学会会員、日本子ども社会学会会員、
日本保育学会会員、関西社会学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

（著書）

末次有加、2019、「第4章 障害児に対する福祉・教育・保育の法律と制度」杉本敏夫
監修、立花直樹・中村明美・松井剛太・井上和久編著『新・はじめて学ぶ社会福祉
6 障害児の保育・福祉と特別支援教育』ミネルヴァ書房、pp.54-60.

末次有加、2018、「第12章 特別な支援を必要とする子どもと人間関係」徳安敦・阪
上節子編著『生活事例からはじめる—保育内容—人間関係』青踏社、pp.147-157.

末次有加、2017、「コラム4 インクルーシブ教育の現状と課題」伊藤良高・富江英俊
編『教育の理念と思想のフロンティア』晃洋書房、pp.84-87.

（学術論文）

末次有加、2020、「＜自閉スペクトラム障害＞をめぐる解釈レパトリの構築課程—
幼稚園と親の会の共同性を中心に—」日本保育学会『保育学研究』（掲載決定）。

末次有加、2014、「『特別な支援』をめぐる保育士の解釈過程—公立S保育所の事例か
ら—」日本子ども社会学会『子ども社会研究』（20）、pp.47-60.

井上剛男・末次有加・紅林伸幸・岸本実・青谷恭浩、2014、「実践力を高めるための教
育実習改革第2ステージにむけて：現職教員を対象とした質問紙調査の結果報告」
滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『パイディア』（22）、pp.63-70.

末次有加・紅林伸幸、2014、「教育参加カリキュラムの効果に関する実態調査(2)：附属
実習と地域実習の比較から」滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『パ
イディア』（22）、pp.55-62.

末次有加・紅林伸幸、2013、「教育参加カリキュラムの効果に関する実態調査(1)滋賀大
学教育学部学生に対する2012年度質問紙調査から」滋賀大学教育学部『滋賀大学
教育学部紀要. 教育科学』（63）、pp.125-137.

末次有加、2012、「保育現場における『特別な配慮』の実践と可能性—子ども同士のト
ラブル対処の事例から—」東洋館出版社『教育社会学研究』第90集、pp.213-232.

〔 名前 〕 井岡 瑞日

〔 職位 〕 講師

〔 保有学位 〕 博士（人間・環境学）

〔 担当科目 〕 教育学概論 保育原理
保育実習Ⅰ・Ⅱ 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ
保育実習指導Ⅰ・Ⅱ 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
教育学特論 幼児教育思想史研究

〔 専門分野 〕 教育学・教育史

〔 学外活動 〕 立命館大学産業社会学部非常勤講師
教育史学会会員
日本教育学会会員
日本保育学会会員
日仏歴史学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

著書

（共著）「絵本に魅せられた戦間期フランスの人々」、村知稔三他編著『子ども観のグローバルヒストリー』原書房、2018年

論文

（単著）「フランス第三共和政期前半における女子中等教育と『家庭教育』—週刊誌『ル・プチ・エコー・ド・ラ・モード』の分析を中心に—」、教育史学会『日本の教育史学』第54集、2011年

（単著）「19世紀末フランスにおける家庭教育像—週刊誌『ラ・ファミーユ』の考察を中心に」、京都大学大学院人間・環境学研究科『人間・環境学』第21巻、2012年

（単著）「女子中等教育の制度化を背景とした娘の家庭教育像—19世紀末フランスの週刊誌『ラ・ファミーユ』を手がかりとして」、日本女性学研究会『女性学年報』第35号、2014年

（単著）「20世紀フランスにおける絵本と子育て—1930年代のペール・カストール絵本を中心に」、教育史学会『日本の教育史学』第59集、2016年

〔 名前 〕 藪 一裕

〔 職位 〕 講師

〔 保有学位 〕 文学修士

〔 担当科目 〕 社会福祉、社会的養護、相談援助、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ
保育実習Ⅰ・Ⅲ、生活環境論、卒業論文Ⅰ

〔 専門分野 〕 社会福祉 児童福祉 社会的養護

〔 学外活動 〕 日本児童養護実践学会理事
日本保育学会会員
日本保育者養成教育学会会員
社会福祉法人 向陽学園理事

〔 主な教育・研究業績 〕

(共著)

「社会的養護内容演習」, 2017, 建帛社.

「保育・教職実践演習」, 2017, ミネルヴァ書房.

「図解で学ぶ社会的養護」, 2018, 萌文書林.

『保育者の協働性を高める「子ども家庭支援」「子育て支援」』, 2019, 晃洋書房.

(論文)

「児童虐待予防におけるペアレント・トレーニングの有効性についてーコモンセンス・ペアレンティングの実例からー」, 2017, プール学院大学研究紀要第 57 号.

〔 名前 〕 杉本 孝美

〔 職位 〕 専任講師

〔 保有学位 〕 国際社会システム修士

〔 担当科目 〕 言葉領域指導法 英語 保育実践学習Ⅲ・Ⅳ
卒業論文Ⅰ 総合基礎演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ

〔 専門分野 〕 児童英語教育 国際理解教育 絵本学

〔 学外活動 〕 日本国際理解教育学会 日本 ESD 学会 日本グローバル教育学会
日本小学校英語教育学会 日本絵本学会 日本ユネスコ協会
絵本専門士 大阪府立中央図書館いろんな国のおはなし会

〔 主な教育・研究業績 〕

(著書)

杉野徹 監修 (分担執筆) (2001) 「ウィリアム・ワーズワスのオルレアン之恋」
京都修学社

(学術論文)

- ・ グローバル時代の児童英語教育-絵本を使った取り組み-
東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要 第17号 (2020)
- ・ 「テーマ学習を取り入れた外国語活動の授業」-児童と学級担任の自己肯定感を高める-
東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要 第16号 (2019)
- ・ 「グローバルな視点を取り入れた小学校英語の授業を通して児童と学級担任の自己肯定感を高める」
グローバル教育 VOL. 21 (2019)
- ・ 「小規模特認校における外国語活動の実践及びカリキュラムの研究」
同志社女子大学大学院 国際社会システム研究科 (2016)

(学会発表)

- ・ グローバル時代を生きるこどもたちの英語教育
日本グローバル教育学会 (2019)
- ・ ESD の視点に立った小学生英語の授業プランの提案と実践の紹介
日本 ESD 学会 (2019)
- ・ テーマ学習と外国語活動の授業
日本小学校英語教育学会 (2018)

- ・テーマ学習と小学校英語の授業-児童の自己肯定感を高めるために-
日本国際理解教育学会 (2018)
- ・小学校外国語活動6年間カリキュラムにおける国際理解の視点
日本国際理解教育学会 (2015)

(その他)

社会貢献活動

- ・おはなし会 (図書館・幼稚園)
- ・英語教育研究会
- ・絵本研究会

〔 名前 〕 金重 利典

〔 職位 〕 講師

〔 保有学位 〕 博士（教育学）

〔 担当科目 〕 乳児保育Ⅰ 保育の心理学
総合演習基礎演習Ⅰ 保育実践学習Ⅰ
卒業論文Ⅰ・Ⅱ
研究指導

〔 専門分野 〕 発達心理学
感情心理学

〔 学外活動 〕 日本心理学会会員
日本発達心理学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

〈著書〉

秋田喜代美（監修）『保育学用語辞典』中央法規 2019 年（学びの基礎、基本的認知能力、発達研究のアプローチ担当）

〈査読付き論文〉

金重利典（2020）. 表情理解研究の現状と課題—発達的な視点からの検討—, 心理学評論, 63(2), pp.148-166.

Kaneshige T, Haryu E (2017) Infants predict expressers' cooperative behavior through facial expressions. PLoS ONE 12(10): e0185840. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0185840>

Kaneshige T, Haryu E (2015) Categorization and understanding of facial expressions in 4-month-old infant, Japanese Psychological Research, 57(2), pp.20-30.

〈査読なし論文〉

金重利典・針生悦子・奥村優子・小林哲生 (2019). 3-5歳児は出身地の方言話者から学ぼうとするか？—東京方言と岡山方言の比較—, 電子情報通信学会技術研究報告, 118(437), pp77-82.

金重利典（2017）. 標準的な社会情緒的コンピテンス 遠藤利彦（編） 平成 27 年度プロジェクト研究報告書「非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書」, 文部科学省初等中等教育-031, pp31-43.

（他 3 件）

〈学会発表〉

- 金重利典 (2020). 保育の「質」を測定するアンケート項目の選定—保育士の自己報告による
ポジティブな養育尺度の開発検討—, 日本保育学会第 73 回大会, 奈良教育大学
- Kaneshige, T., Haryu, E., Okumura, Y., & Kobayashi, T. (2020). Children's trust in individuals who
speak in a familiar regional accent and those who speak in the standard accent used on TV.
BCCCD2020, Budapest, Hungary.
- Kaneshige, T., Haryu, E., Hamana, M., Ikeda, S., & Huang, J. (2019). Infants use emotional
expressions observed in one situation to predict the expresser's behavior in another.
Society for Research in Child Development 2019 Biennial Meeting, Baltimore, USA
- 篠原郁子・金重利典・石橋美香子・小山悠里 (2019). 母親のアタッチメントの内的作業モデル
と乳児の社会的発達, 日本心理学会第 83 回大会 3D-67, 立命館大学
- 篠原郁子・金重利典・石橋美香子・小山悠里 (2018). 母親の精神的健康状態と乳児の表情選
好: 母親の育児ストレスと不安の検討, 赤ちゃん学会第 18 回学術集会 P-114, 東京大学
- Kaneshige, T. & Haryu, E. (2016). Infants use facial expressions to predict the expresser's
cooperative behavior. XXth Biennial International Conference on Infant Studies, New
Orleans, USA

(他 8 件)

〈その他〉

日本心理学会 2015 年度優秀論文賞受賞

〔 名前 〕 谷口 康祐

〔 職位 〕 講師

〔 保有学位 〕 博士（文学）

〔 担当科目 〕 情報処理演習
総合基礎演習
卒業論文
保育調査研究法

〔 専門分野 〕 発達心理学
認知心理学

〔 学外活動 〕 日本心理学会会員
日本視覚学会会員
日本基礎心理学会会員
日本発達心理学会会員
日本赤ちゃん学会会員

〔 主な教育・研究業績 〕

< 学術論文 >

1. The Categorization of Objects With Uniform Texture at Superordinate and Living/Non-living Levels in Infants: An Exploratory Study, Kouske Taniguchi, Azumi Tanabe-Ishibashi, Shoji Itakura, *Frontiers in Psychology*, 11, 2020 年 6 月 査読有り
2. Face Preference in Infants at Six and Nine Months Old: The Effects of Facial Attractiveness and Observation Experience, Kana Kuraguchi, Kosuke Taniguchi, Kei Kanari, Shoji Itakura, *Symmetry*, 2020 年 7 月 査読有り
3. Preschoolers say “no” to ambiguous yes–no questions, Mako Okanda, Kosuke Taniguchi, *Journal of Applied Developmental Psychology*, 69, 2020 年 7 月 査読有り
4. Object Categorization Processing Differs According to Category Level: Comparing Visual Information Between the Basic and Superordinate Levels, Kosuke Taniguchi, Kana Kuraguchi, Yuji Takano, Shoji Itakura, *Frontiers in Psychology*, 11, 2020 年 3 月 査読有り
5. Children's response biases to results of object sharing, Mako Okanda, Kosuke Taniguchi, *Applied Cognitive Psychology*, 2020 年 4 月 査読有り

6. The role of animism tendencies and empathy in adult evaluations of robot, Mako Okanda, Kosuke Taniguchi, Shoji Itakura, HAI 2019 - Proceedings of the 7th International Conference on Human-Agent Interaction, 51 – 58, 2019 年 9 月 査読有り
7. Task Difficulty Makes ‘No’ Response Different From ‘Yes’ Response in Detection of Fragmented Object Contours, Kosuke Taniguchi, Kana Kuraguchi, Yukuo Konishi, Perception, 47(9), 943 – 965, 2018 年 9 月 査読有り
8. The impact of baby schema on perceived attractiveness, beauty, and cuteness in female adults, Kana Kuraguchi, Kosuke Taniguchi, Hiroshi Ashida, SpringerPlus, 4(1), 164, 2015 年 4 月 査読有り
9. 線画オブジェクトの認知過程：検出・識別・同定・カテゴリー化に関連する形態情報の比較, 谷口 康祐, 田山 忠行, 基礎心理学研究, 30(1), 65 – 76, 2011 年 9 月 査読有り